

二十四輩順拜圖會

山城近江

一

八波全
1810
10-1



門心法
統 1810
卷 1-10

金皇本

三國書院藏

彌陀如來從如來生して報應化種の
の身成示現し結ふとて生崇とて我安
養淨土の教主大慈大悲彌陀覺王五
濁の凡夫成哀の吾宗祖
親當聖人と化現し結ふ其字し
聖徳皇子と敬禮大慈阿彌陀佛と唱へて吾
聖人を慕ひたまひをこそ禮ば
聖人廣大無量の大慈悲を垂てて末世
極重惡人五障三從の女人成り還りし
長時永劫乃暗成のくまに三界六道の迷

以を離れ直に無量光明乃淨刹小生
を得せしめ給ふも寔に佛智方便乃
證の處より愚に思ひ計る事此
にあらず因縁よりたかく入らば越の
國にた遷よりて五の世の喜秋とるをせ
給ひに建曆ののた未のや

救免ありて都に當りたるを元來の
の代事とすませば都に遠き鄙の邦より
歸り人乃心をおろして善因に結す
惡業より遠く來地獄に墮せざるを
惡業より遠く來地獄に墮せざるを

一に結ひてこの衆生或滴度せざる
南乃東を廻りし、愚智蒙昧の凡夫
女人或化童に成りて二十餘年
の御若行を皆是末世乃衆生、或才如
こは淺猿もいん愚乃筆をて極樂
五界に生れ得ずめ永く苦をのぐし
一のたまひて大慈悲

聖人の心なまは流すに及男女老幼
誰れもをばけり無執、是を感嘆せし
らんきん

聖人の蹟を示し、殊に靈場及び此の
子二十四輩乃寺院を巡り拜して老
祖師乃廣思れば、世にありを以て報ひ奉ら
んや、遠く國にわたりて界を越て、訪ふ
て廻るぞ、何れにうらまへまじき、是や大海中
の一滴とや、あふくごとく、ありし年の著
書、其某、道が庵にありて

聖人乃御齋跡二十四輩の来由、或書
し、記せしむし、讀みて、止、次、五、口、を、唯、跡、乃
補名をとり、あはれまらざるの外、深き島の

あはれ、我もとも、華に物さふ、す、む、を、し、し、
え、く、は、志、を、あ、し、が、此、書、を、ほ、の、人、の、
迹、の、廣、傳、を、甘、し、ま、り、信、心、の、余、り、
回、跡、を、巡、拜、せ、し、む、に、視、る、文、を、し、し、
詞、花、言、葉、の、さ、さ、ぎ、を、い、は、し、し、と、名、
の、需、を、な、り、て、行、を、終、り、ぬ、く、年、の、著、刻
年、に、再、以、て、閱、す、れ、は、都、六、條、の

本山とありして、國々の寺院、御齋の迹を細こ
園に結し、二十四輩、順拜圖、會と表題せる
は、い、し、し、ま、り、て、目、録、を、し、し、の、地、の、
ぬ、書

ついでに聖徳太子の御行状におおきく尊ぶる有難く
 之野しきしと
 聖人の御行状におおきく尊ぶる有難く
 りと御涙ふむせびあるを成巻の首
 かには聖徳太子の御行状におおきく尊ぶる有難く
 矣の者国月日句

釋 了自序

凡例

一此書又載る石の高祖聖人御經廻の御舊跡二十四輩
 の寺院をあらし其其餘國々於ては真宗の寺院數
 千區ありて或は高位或は高僧或は由緒ある貴院
 或は謂はれ大地等多しとて聖人御旧跡に
 る寺院に除きて此に記せん

一聖人由緒ある舊跡に於ては大地小地を論せ凡悉く
 是を記し其外古院の廢れたる或は依宗の寺院又
 は神社及び在家野山丘塚に至るまで聖人の縁ある
 古蹟に於ては詳正に記し多漏とせん

一御舊跡二十四輩の寺院は各々根本の別院ありて
 より其地と表はれり相續せるあり又兵亂火災等

係^る他^の國^々他^の郡^々遷^るる^る或^は二^ヶ院^三ヶ^寺と別^に
奉^末分^明か^らず^らあり^是其^の寺^院乃^縁起^を記^す
中^に又^然る^其傳^來を^顯別^に

一 此書^に載^る寺^院住^職乃^位階^高下^と記^す其^の所^謂
謂^は當^時後^階の^位き^も後^年昇^進して^高位^に至^る
る^に只^院家^職一^宗乃^格官^に凡^が皆^是を^寺
号^の下^に記^せり^又東^西の

御^幸山^に屬^せる^寺院^も口^トく^寺号^の下^に東^流
西^流と^記して^{これ}と^別に

一 六^老僧^七箇^の靈^寺あり^是又^其寺^院乃^下に^委記^と
一 御^舊跡^{二十四}輩^の寺^院順^拜の^次第^{より}多^行程^と
記^すと^も其^順路^一か^らじ^たと^人が^紙後^に信^濃と^巡

あり^又出^羽と^經る^奥州^に巡^るあり^皆其^所に^着て^是
を^辨説^し且^各諸^の順^路あり^下向^に拜^とる^旧跡^{あり}
一 國^の内^とも^往返^兩方^拜禮^とる^をあ^らう^は此^編國^と
分^て寺^院を^記と^故に^國中^の御^旧跡^に於^ては^往返^兩方^を
一 係^せる^縁起^と記^し里^敷と^寺号^と其^順路^の不^再
出^る多^巡拜^の便^とせ^り山^城國^に於^ても^山科^の旧^地
の^傳路^に係^るは^里敷^と記^すに^あら^う

一 先^に遺^德法^論集^御旧^跡二^十四^輩記^大谷^遺跡^録を
二 二^十四^輩順^拜記^各諸^記御^旧跡^圖彙^多皆^其靈^場
の^傳記^{して}巡^拜の^便と^る書^をあ^らう^とも^是は^長き
もの^に彼^に短^く著^しる^後に^久し^り今^先書^の載^る
石^と皆^集一^國字^信文^猶加^る又^圖画^をあ^らう^は重^疊

婦女の祝安うんがるなり
 一編中御着跡のあづかる名不風系を記し又圖画と
 し係せのせうり是予が著述する所なり只児童婦
 女の觀るに真にうんるべく書肆の利と討る計を
 るがしあつゝ是をりて此書を廣むるの補と
 かりは是又いこの方便なりと其儘の本
 壽以

河州 專教寺 隱 釋了貞 識

二十四輩順拜圖會卷之壹

目錄

山城之部

- | | | |
|-------|--------|-------|
| 東本願寺 | 西本願寺 | 興正寺 |
| 佛光寺 | 源海上人之傳 | 大泉寺 |
| 光圓寺 | 六角堂 | 法泉寺 |
| 虎石之圖 | 桂御坊 | 月輪寺 |
| 西大谷 | 東大谷 | 吉水御着跡 |
| 智恩院之圖 | 丸山安養寺 | 栗田御所 |
| 植髮堂 | 圖崎御坊 | 新美谷 |
| 北山御坊 | | |
| 近江之部 | | |

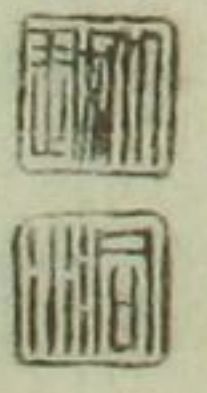
赤山明神鳥居あかしやまのあきみじんのとりかき
 蓮如上人御回跡れんじょうにがひらにのみまわりあと
 永後寺えいごのてら
湖水龍尾の園
志望の里

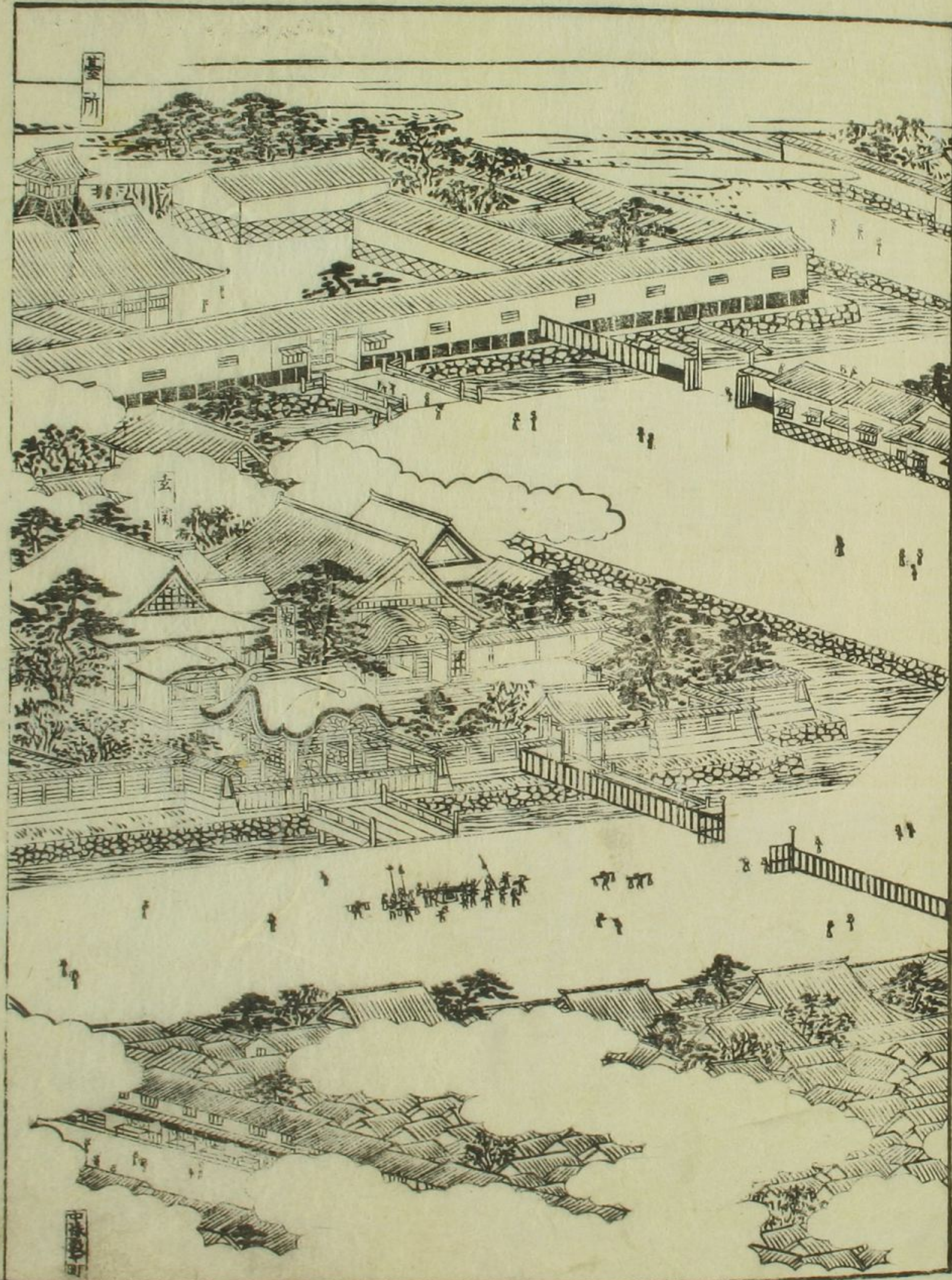
比叡山大乘院ひえいさんだいじょういん
 西流御坊せいりゅうごぼう
 比叡山南谷無動寺ひえいさんなんがのむどうじ
 超専寺しやうせんじ
白檜明神の社
竹生徳

山科御舊地やまのこみよふるち
 東流御坊とうりゅうごぼう
山三極限の法
院の跡
 願教寺がんけうじ
院の跡
樹林の園
 西方寺さいほうじ
二十に聖
第七
 近松寺御坊ちかまつじごぼう

以上

題 宗祖聖蹟圖首
 有三畫師能寫我 祖山及其他聖蹟二
 十餘所聲無不盡焉於是觀之者忽驚
 恢廓之廣而莊嚴亦愜素聞無人不
 言嗚呼殊勝哉所謂千聞不如一見者豈
 不重圖之功乎乃人之觀之則亦庶乎
 起信念恩之一助云爾
 享和癸亥春二月 玉泉洞水撰



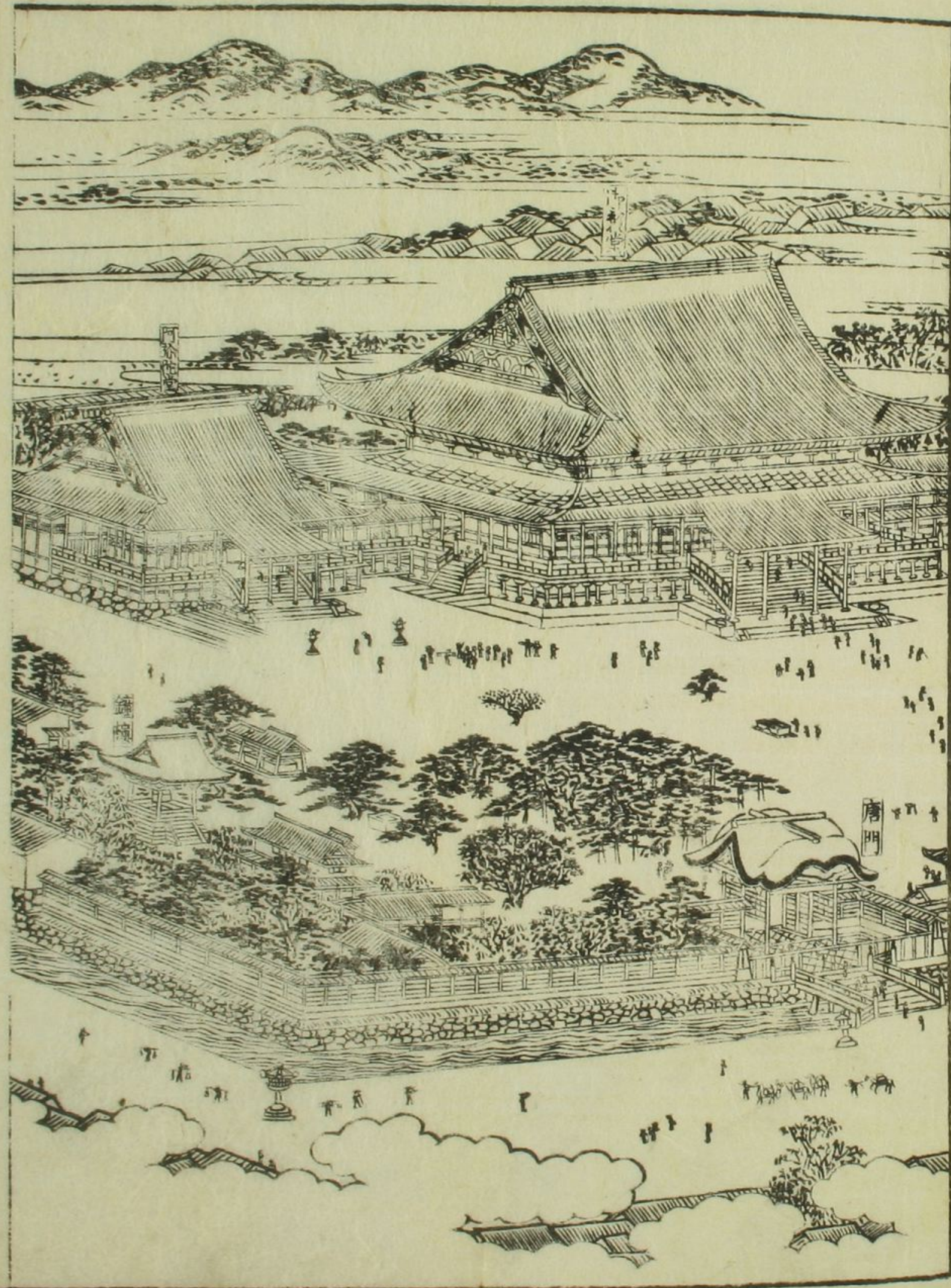


東六條
本願寺御門跡御堂

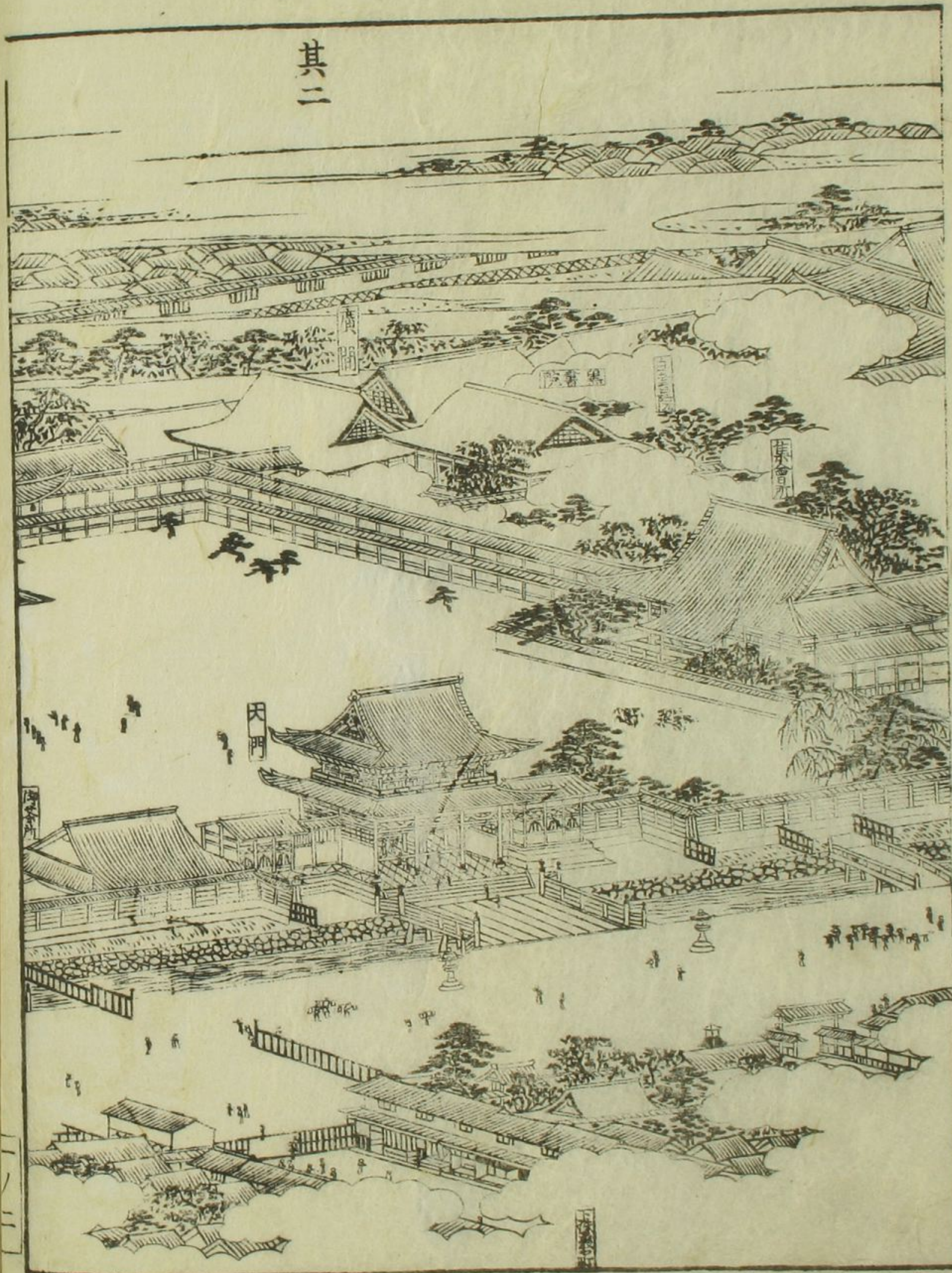
中寺

大講堂

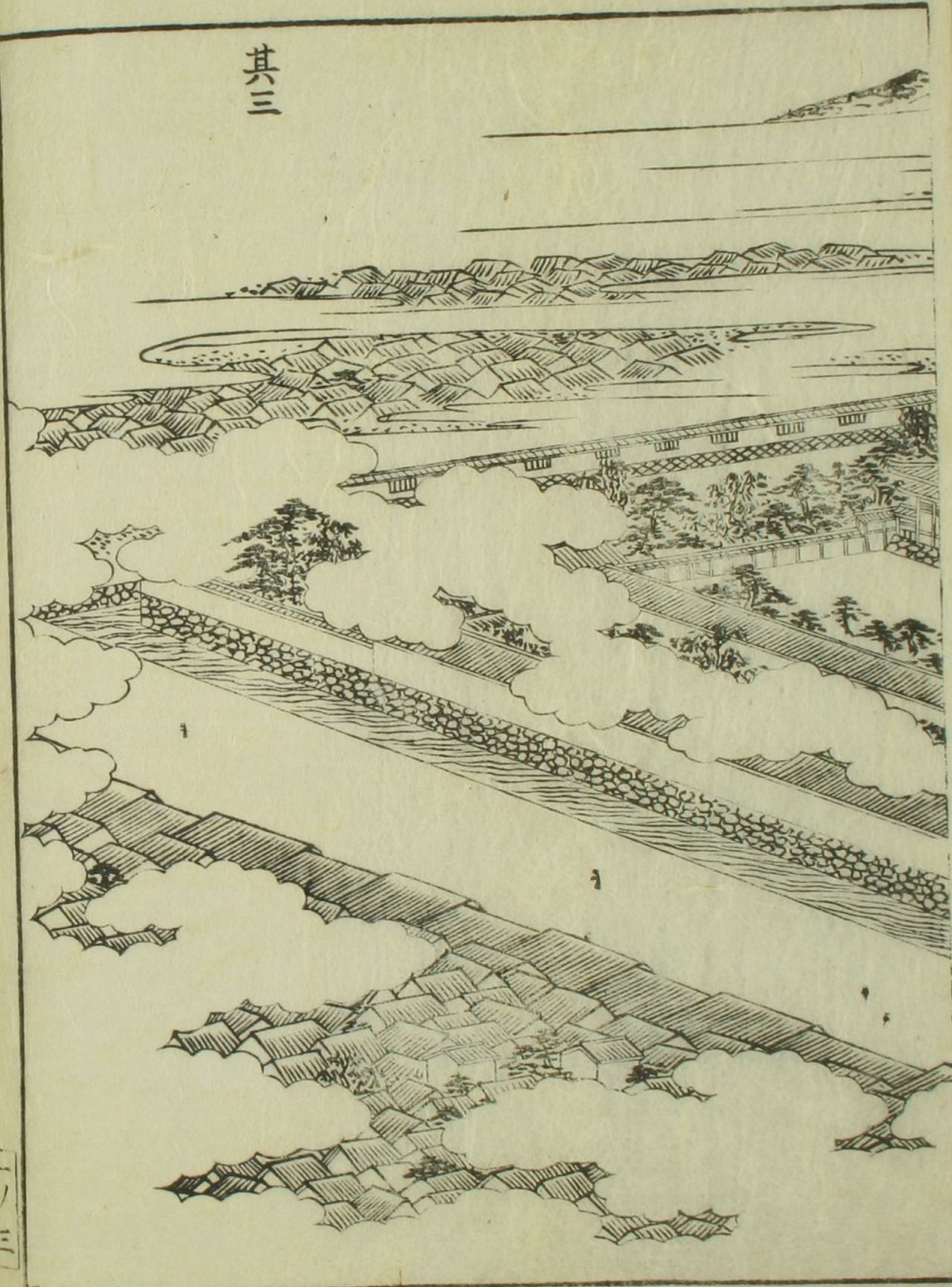
上



其二



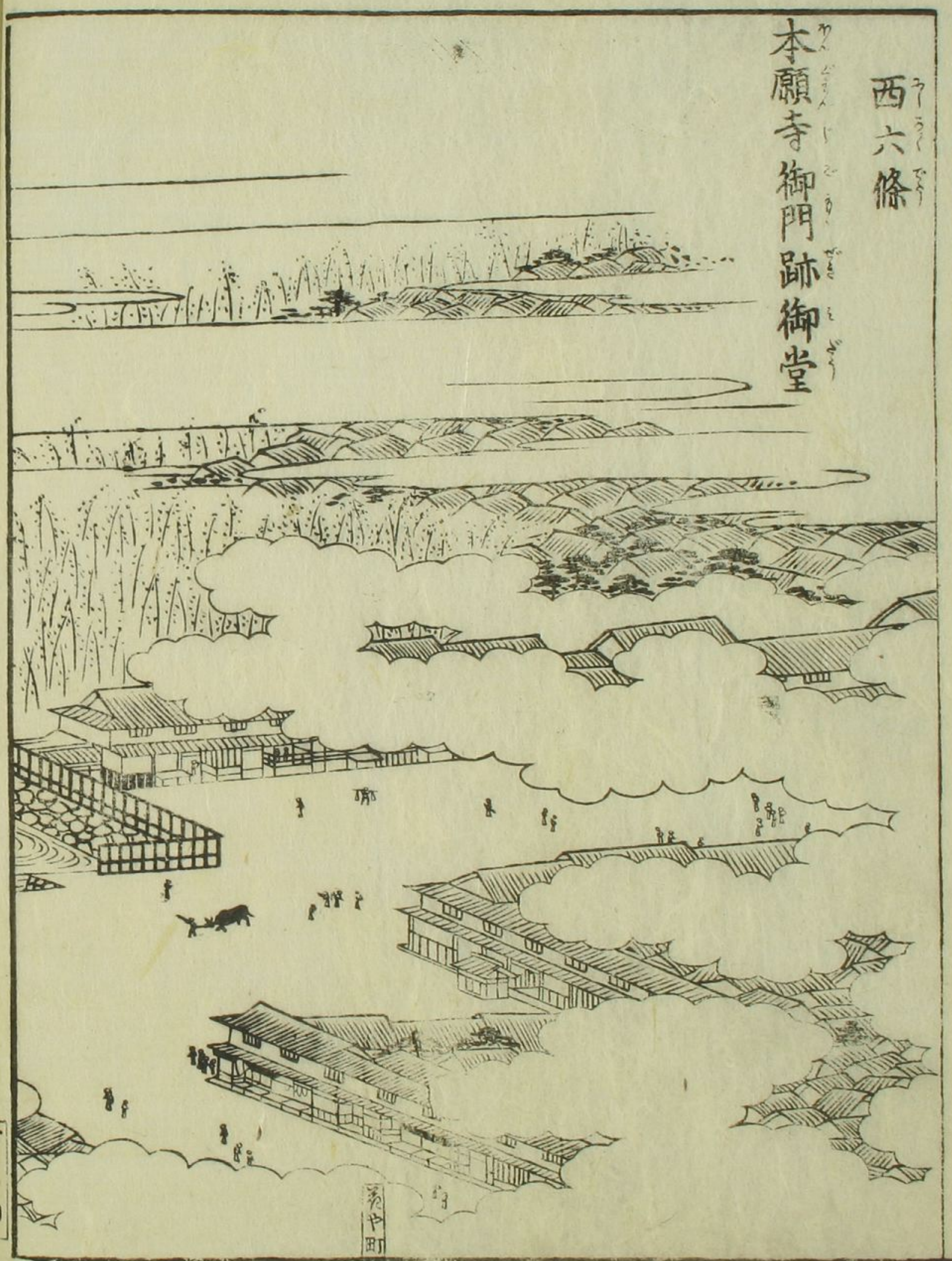
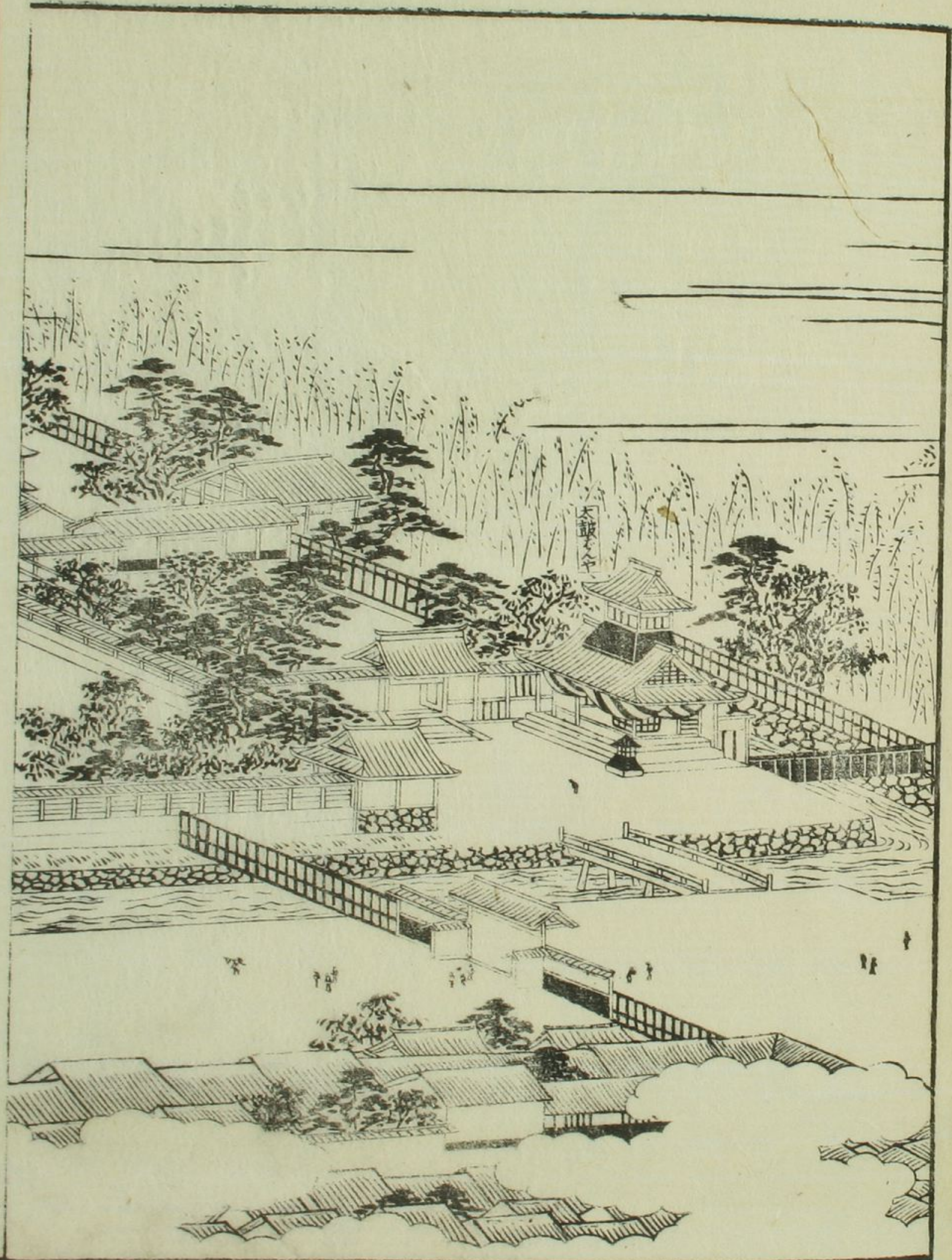
其三



易行大道以廣開進
止同塵絕志才遺第
感恩尋事蹟忘機
鳥雀面西來

越翁





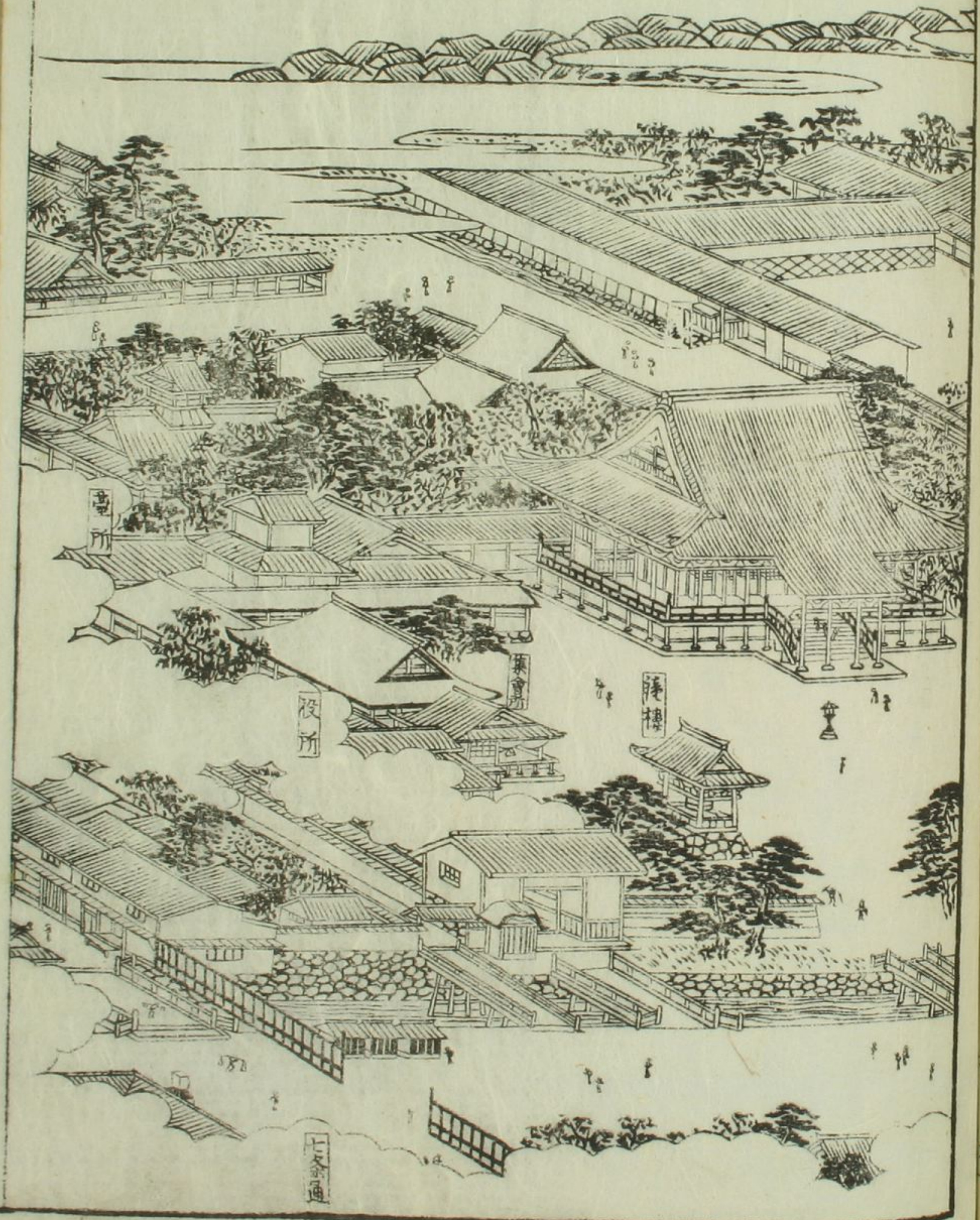
西六條

本願寺御門跡御堂

長中町



興正寺御門跡御堂



其三





二十四輩順拜圖會卷之一

興正寺御門跡 西六條あり

往昔高祖聖人御建之乃靈場也 御古山科 中興 文明元年 華恩

院大納言經豪上人 又連教上人 佛光寺を創し別立し終ふ不

○沖什室よりはる祖聖人御壽像 御前 御叢 聖人 後鳥羽院

御直衣 勅して聖人へ賜ふなり 其外靈寶勅書等教品御傳來り累之

佛光寺御門跡 八條坊門 高倉あり

渋谷山華恩院と稱し真宗相承の一本山なり御縁起曰

聖人勅免御降洛の初山城園山科郷又一宇を御建立す

二年聖人 二十歳 興正寺と号し一宗根本乃道場と定め終ふ其後當

寺と御直身真佛上人に附屬し終ふ此真佛上人より

鸞聖人御直身乃中より別て博學多文なまじく内外の

諸典を暗くし聖人御相傳の安心のきりりし御しり

御俗姓は拍原天皇の末系鎮守府御軍平國香の後胤下

野の園司大内家乃息男なり此に真佛上人第二代の法脈

を相承し終ふなりと野州專修寺寺務之儀を聖人より

仰聞らるる友に興正寺と源海上人に附屬して園東より

里終る源海上人も同じく聖人乃直身なり此源海上人と

中興の原姓大藏冠の末裔日野家の庶流なり武州鹿

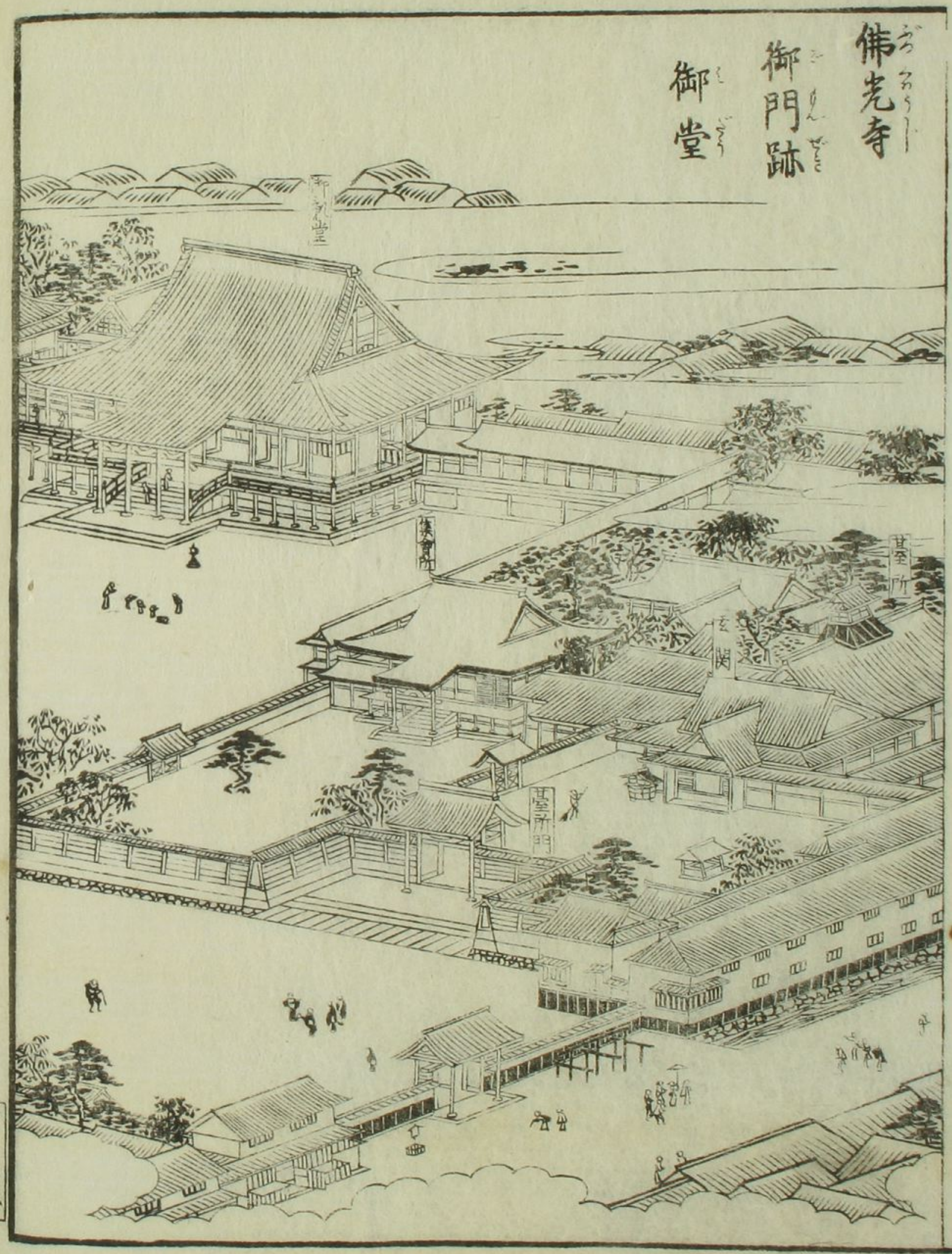
本乃住人安原強河守隆光とて文武に譽ある武士なり

隆光二人の男子あり兄と月壽と名はけ身を花壽と号し

寵を限りたりしは有る無常の有りさま老幼不定の由

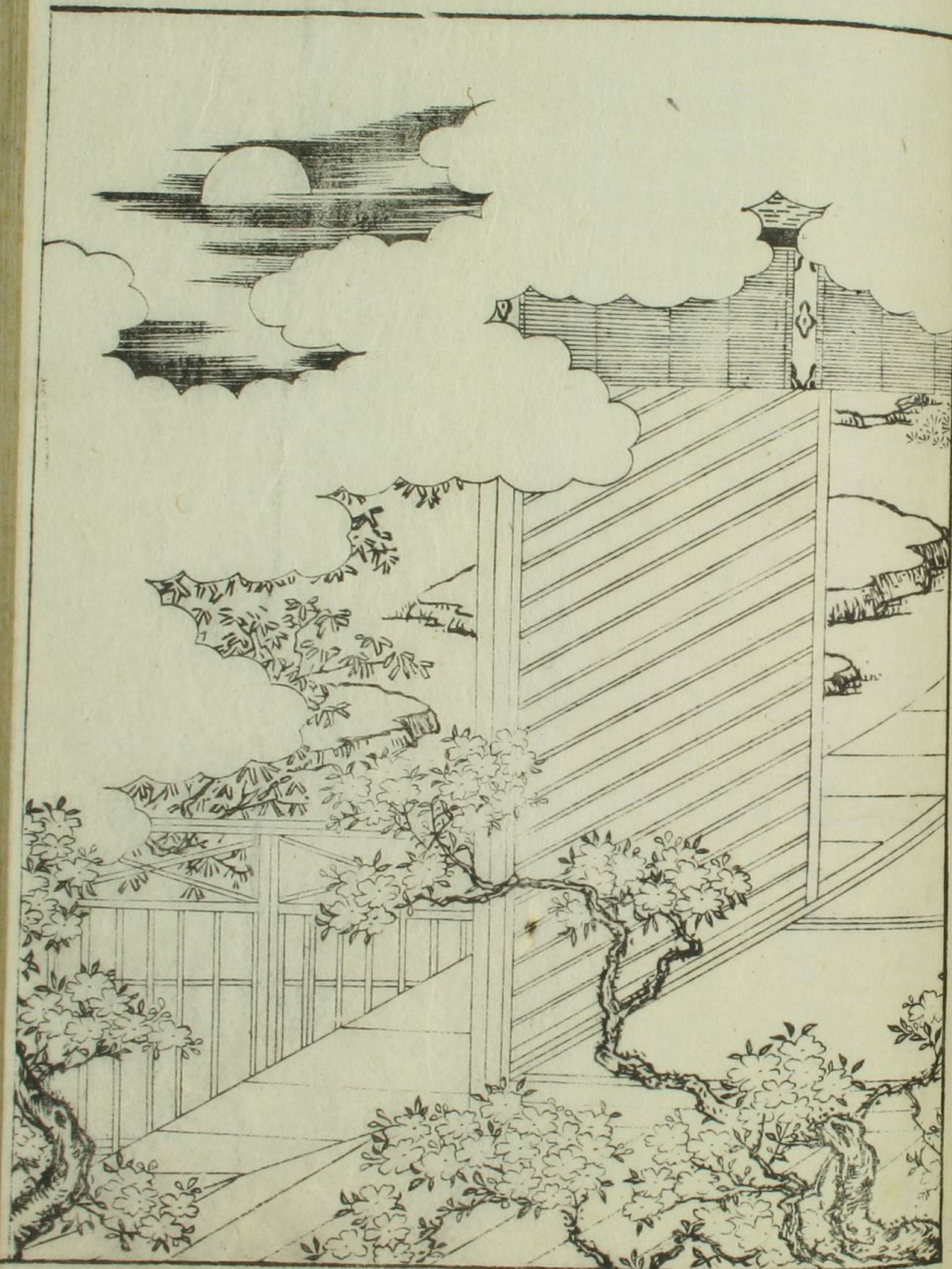
婆の夢いりて兄の月壽を七女花壽に又やうく病み

かく月日は露の命に消るる隆光天を叫び地を咽ひ泣く

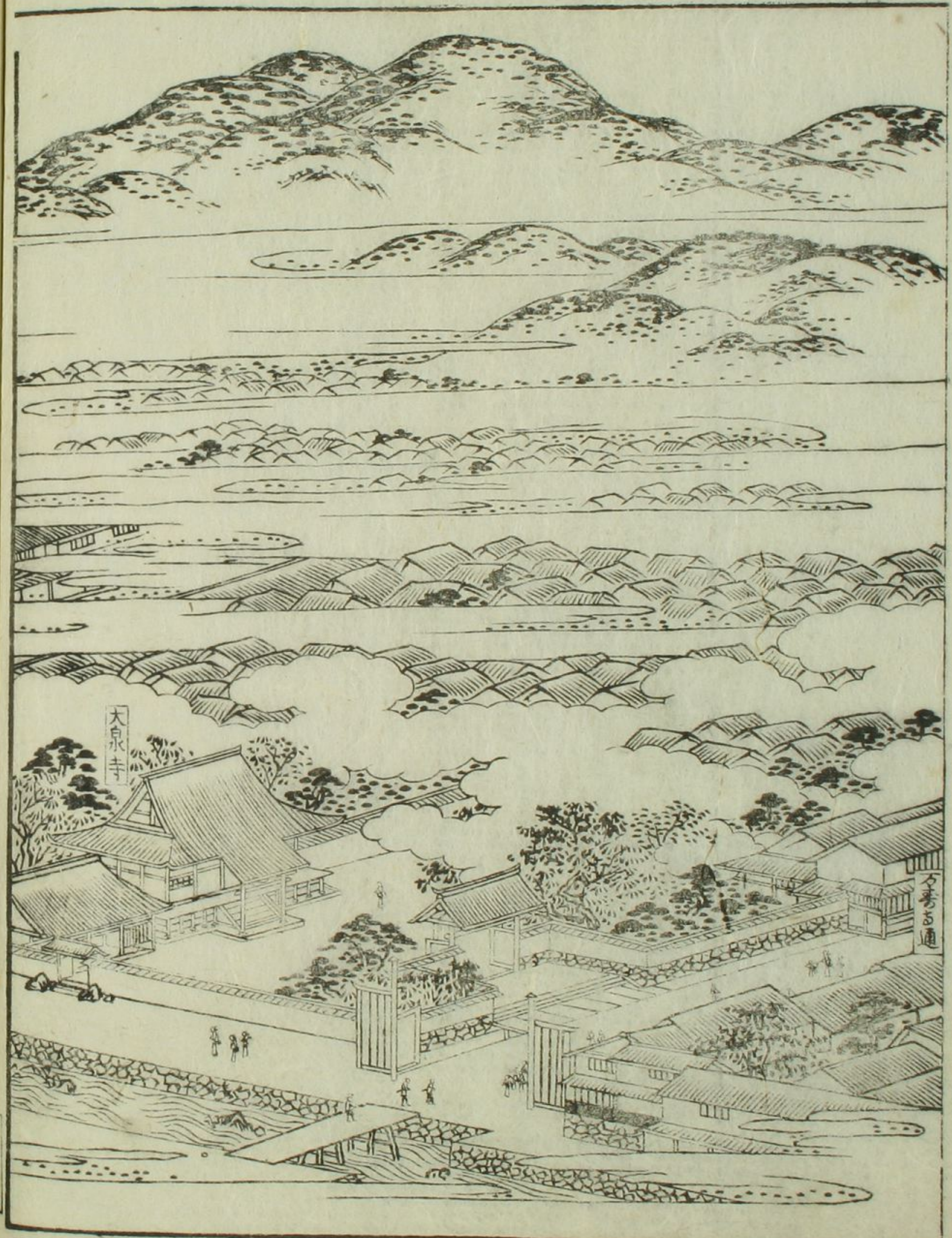
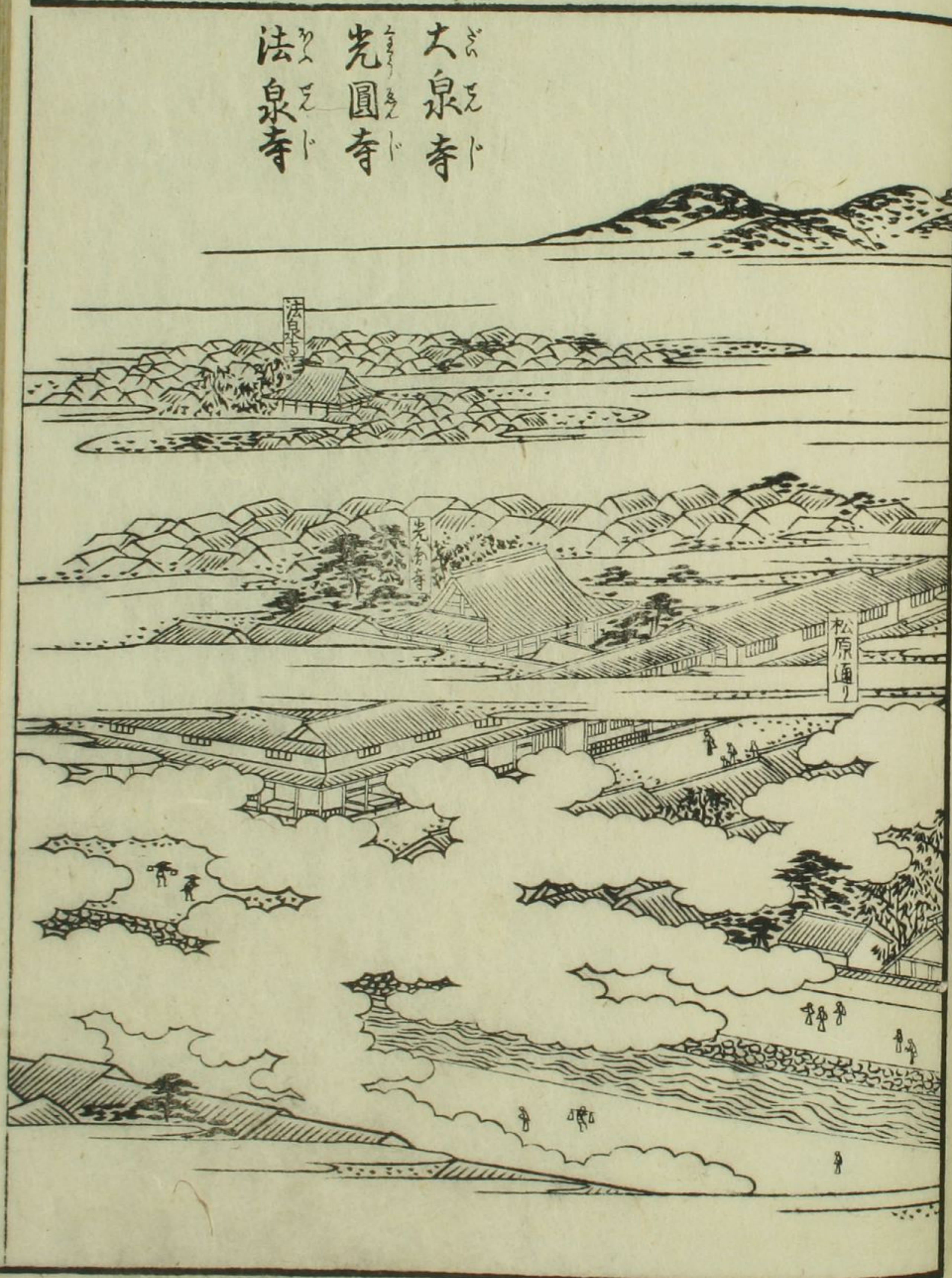


源盛き鳴き多るく若死せむとまで歎き居りしが何る
疾の及ば端嚴正相の僧来現して若て曰く你が二人の
を觀音勢至の二大士之假又愛子と生さく無常變易
の理と云く汝もこれいと汝も夫婦として善哉のる
入りめんがあなり今幸末代不思議の若知藏あり親鸞
聖人と名く你彼知藏と謂し出離の要路を問ふと告
げし則ち愛の是より隆光大又歎ひ急ぎ聖人の禪室と尋
なり聞法隨喜し多竟又聖人の御牙より汝も時
康安元年隆光三十四歳なり則ち聖人法名と源海と授け
給ふされば源海上人博識高才なり智徳勝る汝もがなり
當山第三代の法脈と相承し給ふ
源海上人の傳り三州如來寺の俗其
外滿載の委しく其を攝
て其の
其後人皇九十五代後醍醐天皇乃御宇に當て當山第

七世了源上人の附當山御本阿弥陀如來令先と故に
棟宮の内をよりやし玉神と照し給ふ上後醍醐天皇奇
異の思ひとほし給ひ歡感の餘り詔と下し改め勅して佛光
寺と寺号を給ひ專修念佛の棟梁とるべき論旨と賜る則
此の像の聖人六角堂御系籠の時感徳し給ふ石の爲像也
尚又別々宸翰を深らと祖師聖人の御傳抄と書寫し佛
光寺へ寄附し給ふ祖師聖人傳來の宝物なり
○根堂本阿弥陀如來 此の像令先と故に棟宮
を照し給ふは佛光寺に在り 御教書 兩山聖
人の御傳
○副法相承乃名号 眼書に曰く若し其の室号とて
を其の像に 附法 相承乃名号と名つくとそ
相承御装束 法持上人より親鸞聖人の御傳抄に云はせ給ふ
を親鸞の御装束なり
風俗に法持上人の御法名を以て其の御衣 後而某接よ
法衣今後御衣者也多号月日御自名を書きたまふ
○法持上人御自地御



大泉寺
光圓寺
法泉寺



光圓寺

東流

松原通西洞院

此寺花園光圓寺と号しまたしく九條園白殿下の所別荘之
建仁の頃寶聖人此殿に御移住はしく又御年六十餘歳
関东より河津洛のりち居住し移りて西洞院花園御坊
と稱せし其舊地なるを明方り御傳繪抄下の卷并又後
云五條西洞院より是一つの勝地なりとて志づく居を志
め移りてあはれ則以て澄ととて今乃松原通と云ふは
一への五條通之常陸國平右郎熊持一系清の時奉の申
を易系りたる御坊也此光圓寺の地なりと云ふは

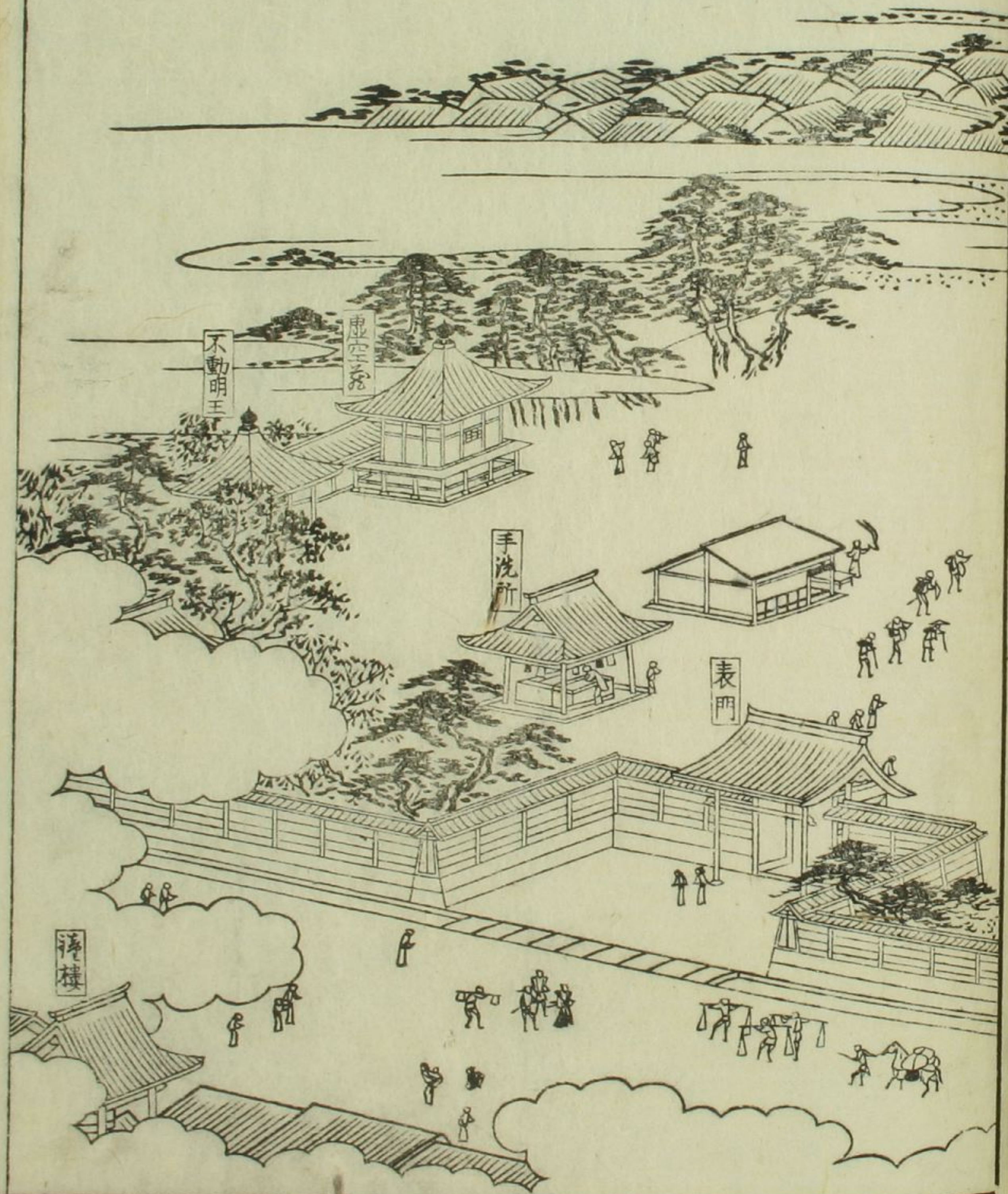
六角堂

頂法寺

聖徳太子御建立乃靈場御奉尊救世大悲の御正神の
聖徳皇七生御身を放り給ひざり正身の御姿とて御住し

つらつら世みりきつらつられが今安んじ思ひ抑親鸞聖人の
靈場へ百日の参籠しつらつら其由縁を易系奉り
唯是一朝一夕の祈りていはしまさば濃く聖人の大悲
御身又余り五濁の九慮をく安樂の導き給りんがため
御身を若くし給ふ今其流と汲り門系の身より油を
後目眼より血液と流し其恩徳を報し其教を信
と云ふきものなり聖人始り比叡の山上よましくて難多聖
道の御修り又身心と若くし給ひしつらつら哀愍大悲の御
心くみ何れもて嗚呼此難多や此苦多や我が小まよひ
安き小路なるみいふいりんや末代の凡夫此難多と難
み堪んや願くも濁世の衆生をて易多の大道と守き
苦界と海度せしめは我身れた人毒中よ若く受る

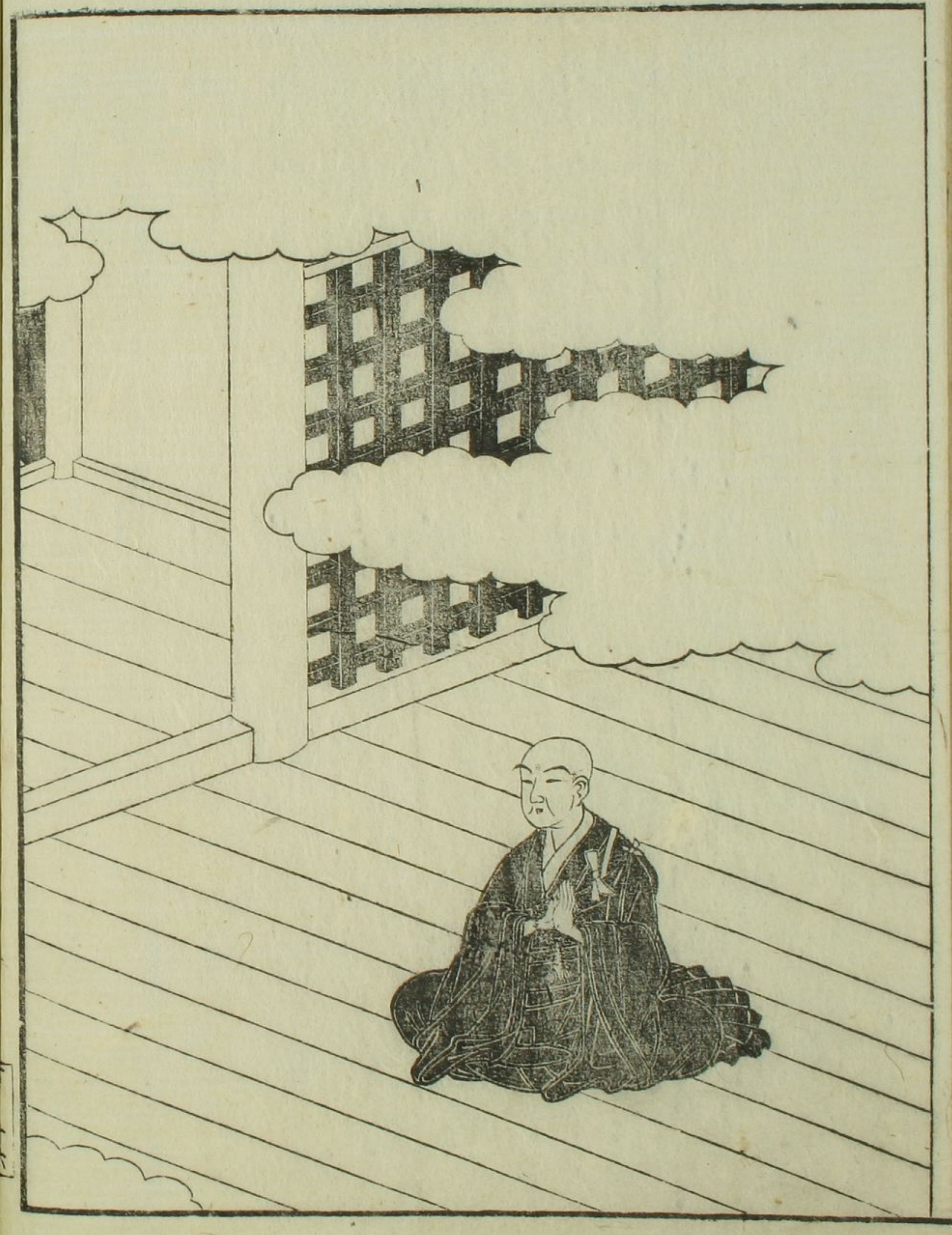
六ヶ角堂



とも受ふ厭ふ所も乃をを既根本中堂へ歩くと
運び薬師如来又祈誓し終る者數百日又及せらる
しが是にして薬師如来の靈力を蒙り此六角精舎へ百
日系籠と成し有縁の術法を成し終りてより祈願
ありせられたる名はし抑ふ比叡乃高根より夜毎又通せ
終る叡山大乘院より六角堂
まを延福三里十八丁 実々けりし雲母坂登る小足の上
難くて通ひしる山まも登るも若く下るも悩む心穢
たる山坂を風雨をいとり夜昼夜と撰りて或は跪きあふ
終る終る 運び終るる加々加後川の流は浩くし
てる所通る時としてい浩く流る溢る流がたれとも厭はせ
終りて終るなり清通ひ急ぐせ終るしが建仁元年の春
聖人二十九歳にして救世菩薩の告命を依て若水乃禪

坊より法持上人は値遇して易妙の大道を説き終る
終るの祈願を弘め凡そ女人を引導し終るこそあはれ
其後かゝりて救世菩薩聖人告命し終る所の神にけ
り建仁三年癸亥に月又日乃夜宿時菩薩顔容端嚴の
乃聖僧の貌を再現して白油の袈裟を着し廣大の白
蓮華に端座して若信を告て曰く
行者宿報設女犯 我成玉女身被犯
一生之間能莊嚴 終終引導生極樂
是れこれ我誓願なりと若終る此文終るは神傳あり又終る
は神傳あり又終るは神傳あり又終るは神傳あり
終るの祈願を弘め凡そ女人を引導し終るこそあはれ
又若信と申すは神名の此時觀世音菩薩の呼び終る神名

坊より法苑上人と値遇して易妙の大道と説き給
 詔世の本願を弘め凡そ女人を引奪し給ふこそ
 其後かゝりて救世菩薩聖人よ告命し給ふ所の
 建仁三年癸亥日月八日乃疾宿時菩薩顔容端嚴の
 乃聖僧の顔を本現して白袍の袈裟と着し廣大の白
 蓮華又踏履して若信又告て曰く
 行者宿報設女犯 我成玉女身被犯
 一生之間能莊嚴 終終引奪生極樂
 是のこゝれ我折言願なりと若信よ此文未だ御抄あり又淨
 辨六南史の 爰又抄いし鸞聖人在家家至智の凡そ入障垢
 穢の女人を引奪あふき一宗を闡んとは會得し給ふぬ
 又若信と申し所名の此時觀世音菩薩の明し給ふ所名



ちりとうやるくもけ親世菩薩王女の身と現く聖人
乃妻室とあり終ひく凡妻女人と導き救んと誓願し
せ終ふ不可思議の方便なり則告命又玉女身と宣ふも
心く月輪禪定の姫宮玉日乃系を授けしる。鎮西
流澤去三國佛祖傳。當流實福及右之表。因縁秘傳
抄其外自他の記述と考る又鸞聖人救世菩薩の誓願
みよんく在家往生の智識となり終ふ事實是又わろく
しく説くるのみならず終實又親自在菩薩隨類應日乃
利益抄にしまして因白殿下の宅女君と生じ鸞聖人とま
妻の貌を以て凡妻往生の大道と教化し終ふて去後
鸞聖人いま法統上人の舎下におまじるおろく月輪
禪定香水の禪坊より終ひ法統上人へ申したまはく

大師上人の淨教化又順の餘院の本願と信し念佛とま
は在家出家の撰とろく教去往生の了解我多し抄いて終の
疑ひもさふらつた名去大師上人のよく持戒精進の出家こそ
念佛して往生し志終りん安戒在家の衆念佛とくつ在
往生の不定なりんうとらやうと疑ひ中人き門衆も多う人き
希く淨弟子の中こそ末代在家往生の善知識とあり
終ふた淨僧一人我も揚子より我娘玉日と配偶して
末代乃在家凡俗と往生させうひ也と余我くも申し
終ひろく大師法統上人大に歎ひ終ひ禪定殿下の終こ
と實我日頃の念願を叶つり委細さふらふまじ善信淨
坊今禪定の仰又さるるいへ被承にあり終人と終り
其師聖人唯淨派のみとせ終ひるるが良みてや終り



ざり小法流上人獨僧みこしを知り終るる何ぞ凡愚の
 斗知るるわろしんや法流上人を正教勢至菩薩の化現
 親鸞聖人の明らるる弥陀佛の變現玉日姫若則親吉
 薩埵の應化るれば三尊一附又出現して平等利益の化
 とみし終るる實に隨教應門の大慈悲喜の涙又咽んでる
 ひなるるべきものありをや尚又此事實我宗門獨の石流
 小法流他家の記福にもしきかみ是と終るる不謂を云
 鎮西流の記福六南堂の記其の外自化の諸傳又分明也
 板此に白の流授る洛陽寺町日本屋山寺又傳來凡
 法泉寺 東流 柳馬場通押小路
下ル流石所にあり
 當寺の祖師聖人漸入寂の古流之傳古聖人の漸令身得
 有僧都の漸里坊より昔の法流と稱せしが聖人流也

さう小法統上人獨留みこれを知り終る何ぞ九惠の
斗知る不らんや法統上人も正教勢至菩薩の化現
親鸞聖人の明らふ小弥陀佛の愛祐玉日姫天則親る
薩埵の應化なり三多一少又出現して平等利益の化
と云し終る實に隨教應時の大悲悲喜の派又咽んでる
いなり人きとの力をを々尚又此奉實我宗門獨の石波
み淑比他家の記福にもあきかみ是と終る不謂るよ云
鎮西流の記福六角堂の記其の外自他の諸傳も分明也
叔此にの流授も洛陽寺町日本屋山寺も傳来以

法泉寺

東流

柳馬場通押小法
下ル虎石町にあり

當寺の祖師聖人漸入寂乃古法之付古聖人の御令牙
有僧都の御里坊より昔の若法院と稱せしが聖人流

小隆園東の化益過る六十歳の以花洛より終ひ五條
西洞院花園の御坊又も淡谷の御寺園崎の御坊扱不
又後頃終ひ又御老年の後此御坊にも入せ抄はし
蓋地力信心乃正因專念稱名の正業と教化して化と十
方より益と末代み終り終ひるる既又化縁の勤つ
きとせ終ひ以弘長二年中冬下旬第八日午時満九
十歳より念佛の御夢終る津去又歸らせ終るの
御旧跡也寺内より古井ありこれ聖人朝夕をせ終りん
料又涌出する津水ありしと濃み化益を著る乃輩
末代流きと汲むの門系悲源投地して尊重と人き
し乃るる此町を虎石町と号する小謂あり聖人在
世の昔虎石とる名石と虎の薬山と居る朝夕是

元政法師

虎石を

見物



を覺し給ふ事生るものと覺し給ふがごとし純る又聖人
 既み河入滅はしく多時此石のうらうれとせし河と流
 せらるがごとく夢を殺しく後悲む河門系乃僧達星を
 けき奇異のふいとあし即於洲情乃本石までも聖人
 入寂乃河別とて悲むんとて涙を志ほらせ給ふかく
 て年久しく此寺又傳来せし又右岡秀若云其名石なる
 と聞石源く懸垂ありてこれを乞ふ伏見の城より門にて
 愛し給ふ後年伏見乃城河を拂ひり砌諸人皆是と
 知り給ひて其後城跡のふに残りありける小浜若の寶塔
 舟とらる日蓮宗の僧霜月二十八日此傍を通りけ給ふ
 麓の中み此石夢と述く後又知りけ僧不思議の事且
 思ひ及形虎又知く名石なる事知り我寺又持帰し

て昇のぼびののとせりたる小此僧或夜の夢又け石親鸞聖人
の所寺へ集りくた中と言ふと見る大き小給と我寺當
居がにしとく直と東本願寺へ執せらる今東大谷
の所廟の内に納め置給ふ石是とぞ實み石の淋晴乃
此の方りとくと聖人給哀乃所心且感て悲喜の夢を
發見是も不思議の事といひけきの也也け謂はる小よ内
て虎石阿と号るとの小此寺往古の魏たる靈場ありけ
とも中古兵乱乃災みりと廢退して小坊と名たり

○桂河坊

洛西桂の里寺内村と七条通
此河坊を往古に親寺第三代覺如上人建立し終る靈場あり
寺号久遠寺と号く依て里の名を久遠寺村といふと西
幸親寺乃河別院なり覺如上人乃河墓所あり

月輪寺

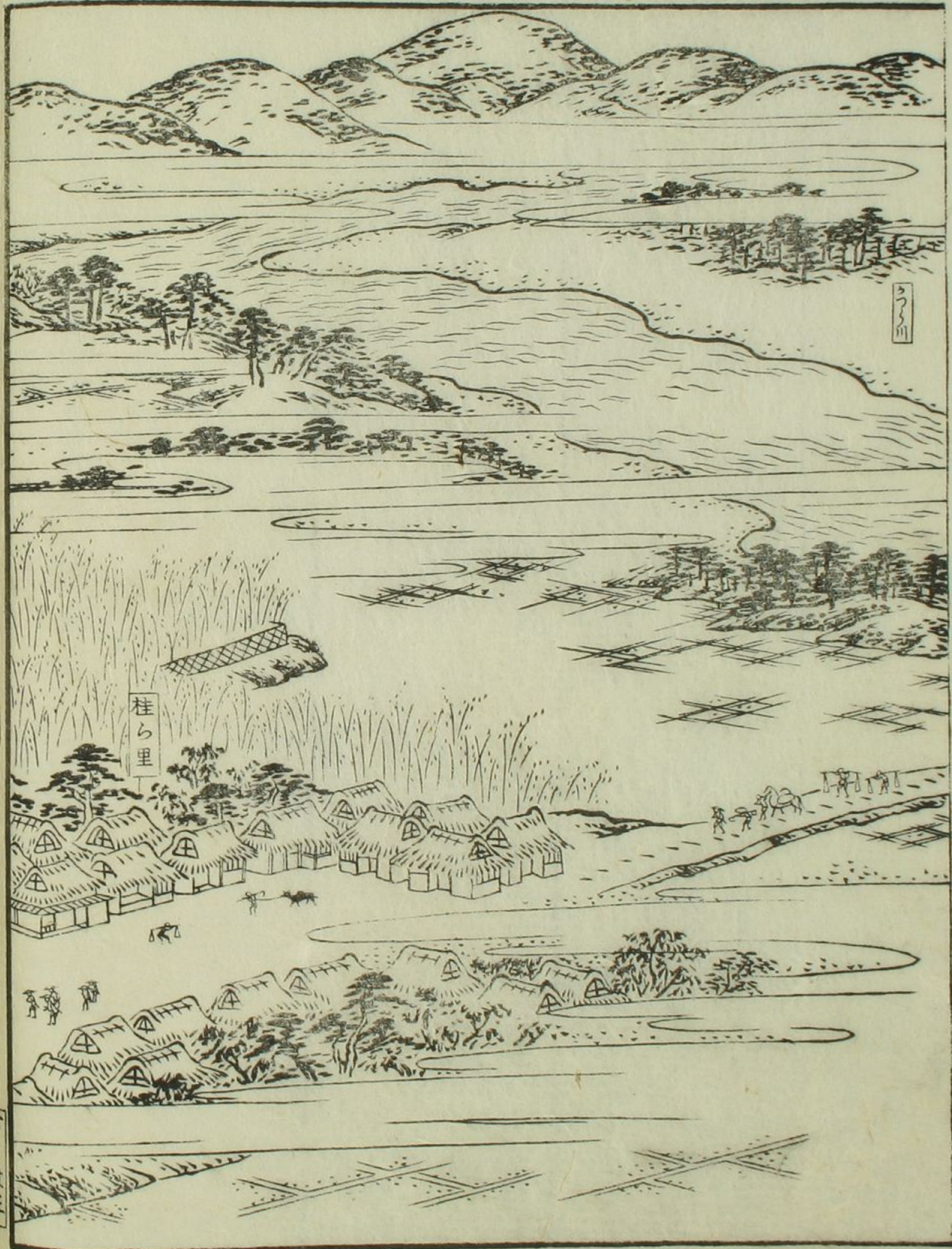
龍谷山の東道
院院の上のとあり

此寺乃往古空也上人乃開き給ふ古院なり突げや山なりり
み人屋を放き里遠く雜談乃夢とき久寂靜として敷を
を拂ひ閑然として佛道と言ひみと海よき乃地之去り
よりてかくくも九條園白兼真云此院入く入道し諸
世の所身とあり閑居し終る不ありとそ又大師法苑上人
とけ院を来り釋と念佛し終ひ親鸞聖人と度く来入
ありく殿下と共に稱名念佛乃正業と修し終ひしとく
そけ院乃師弟三師乃親像押のく河自他なりと此院を
安置せり又禪定自植給ひる時雨の掃らる名樹人ら
みねを以尚け山中山石間より出現したる丸鏡あり月輪寺
と号る乃此謂くといひ傳へり

西大谷

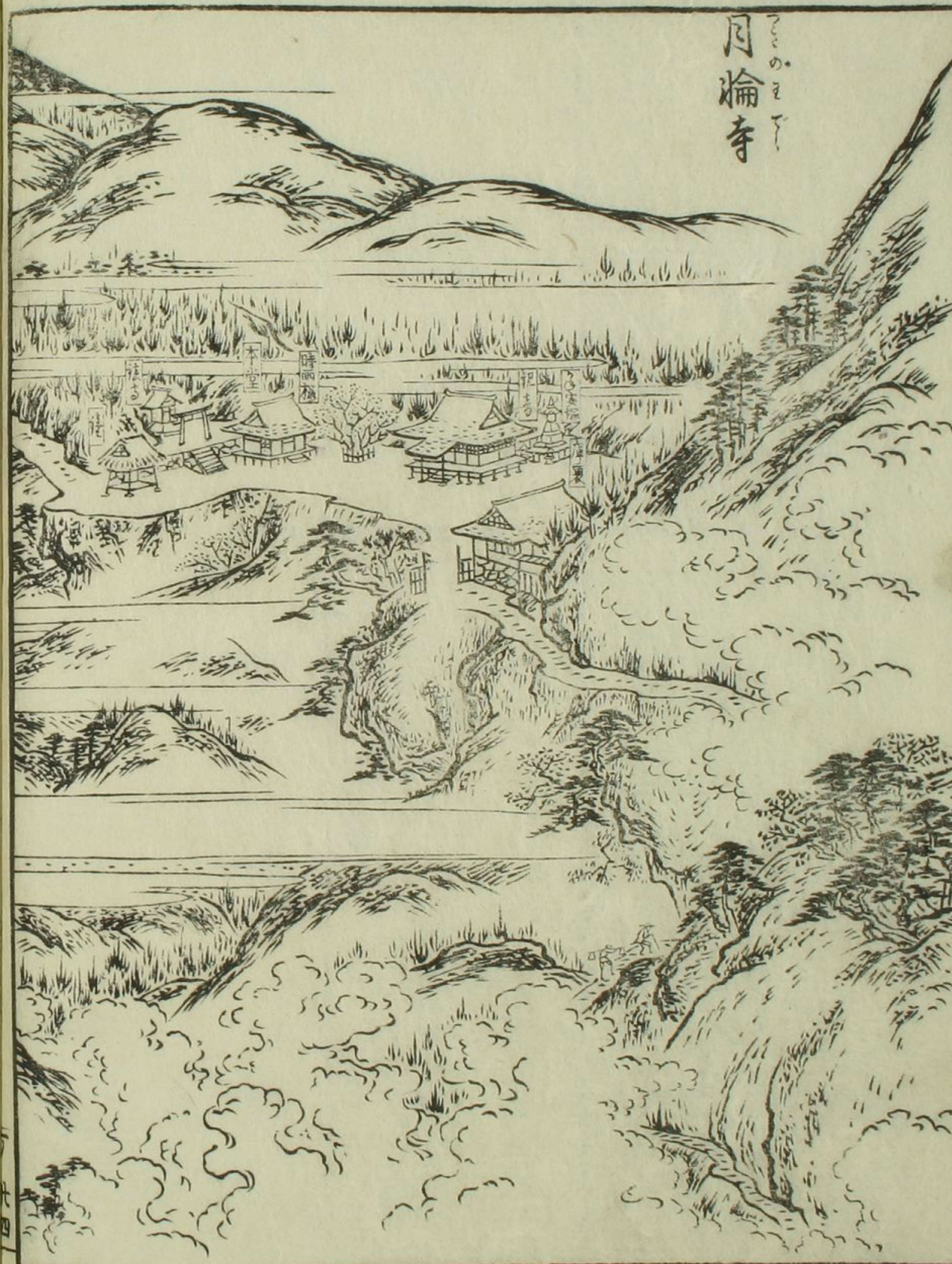
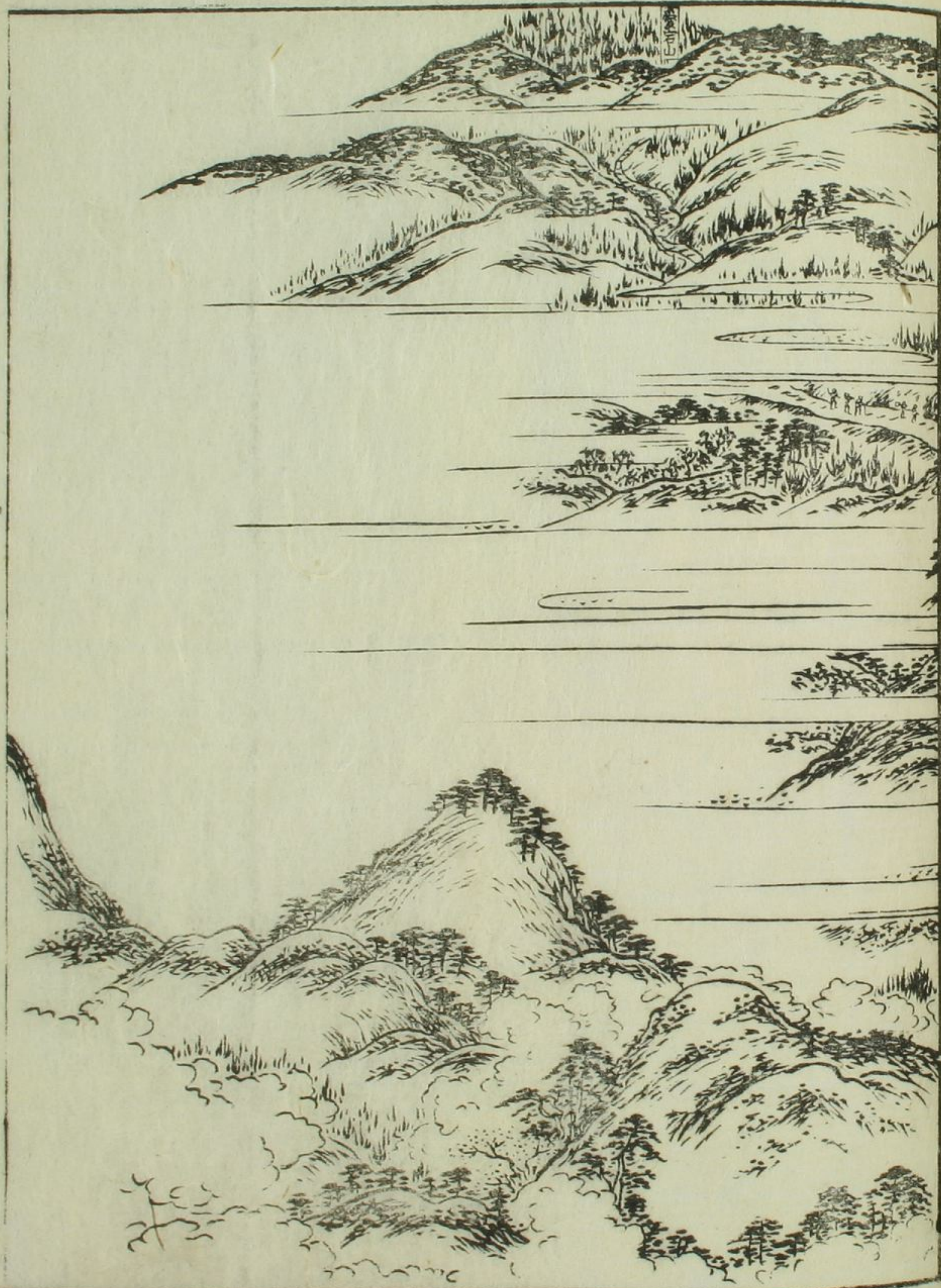
龍谷山と稱ひ

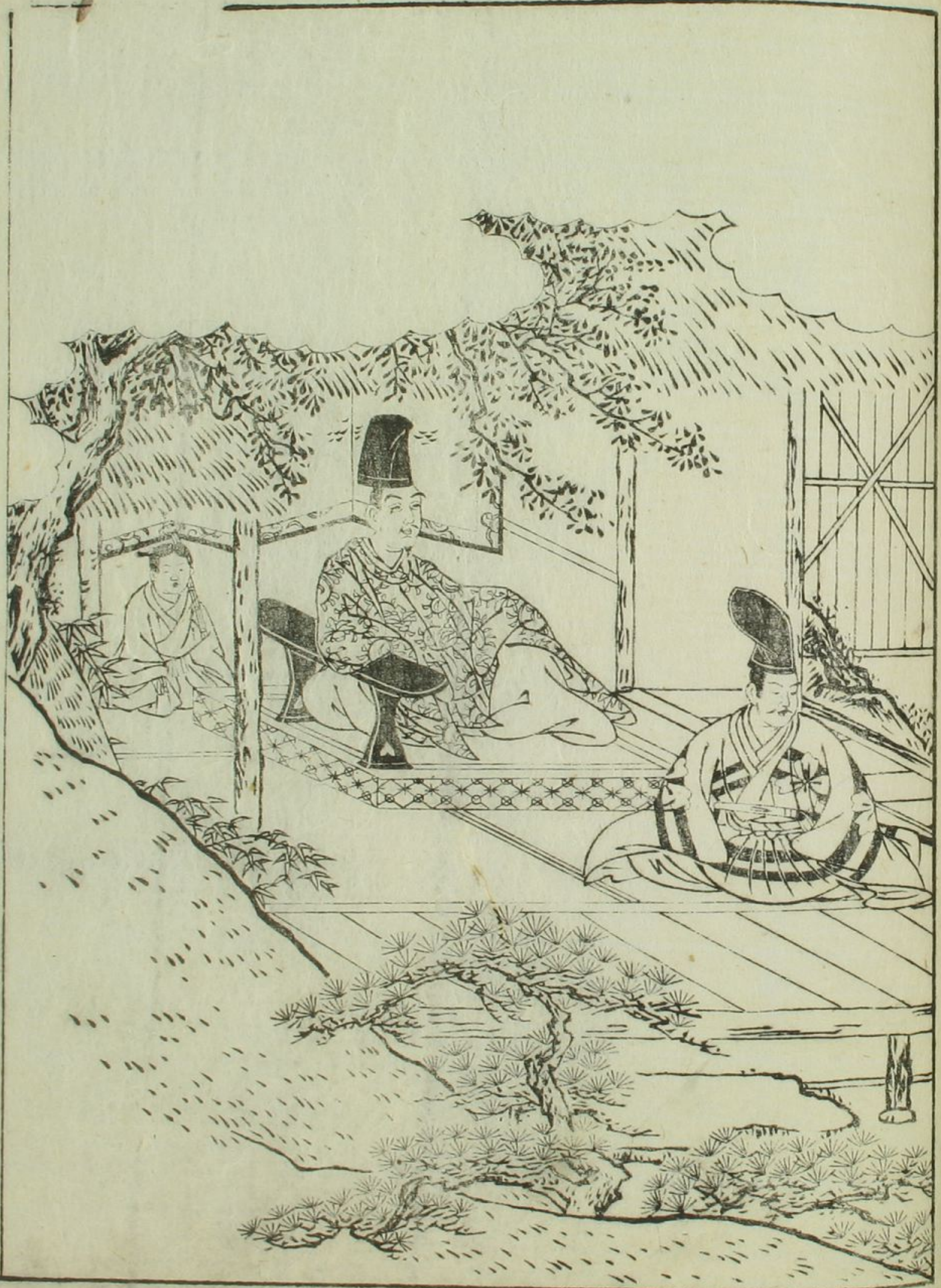
桂
湖
坊



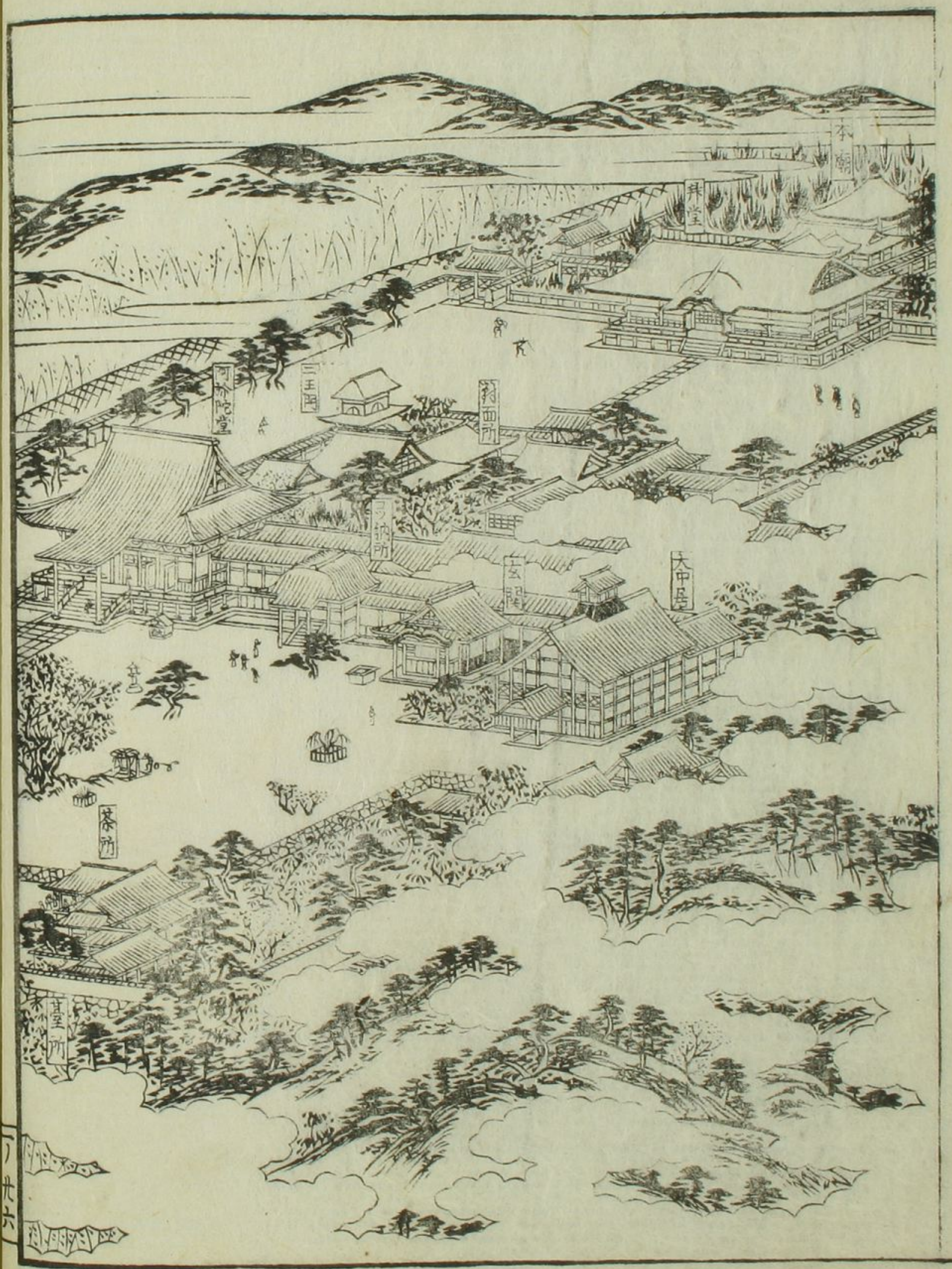
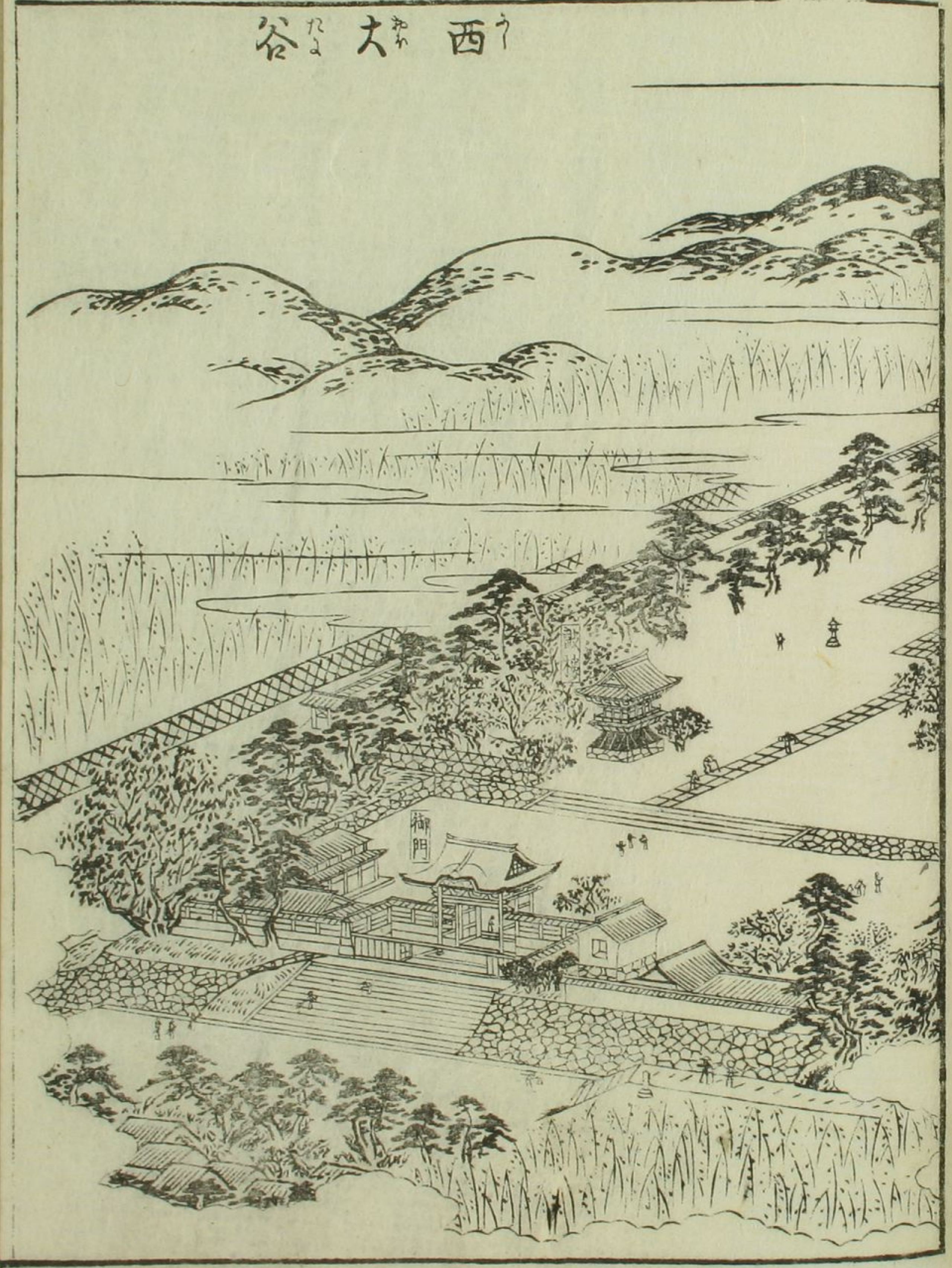
桂
ら
里

三
つ
川





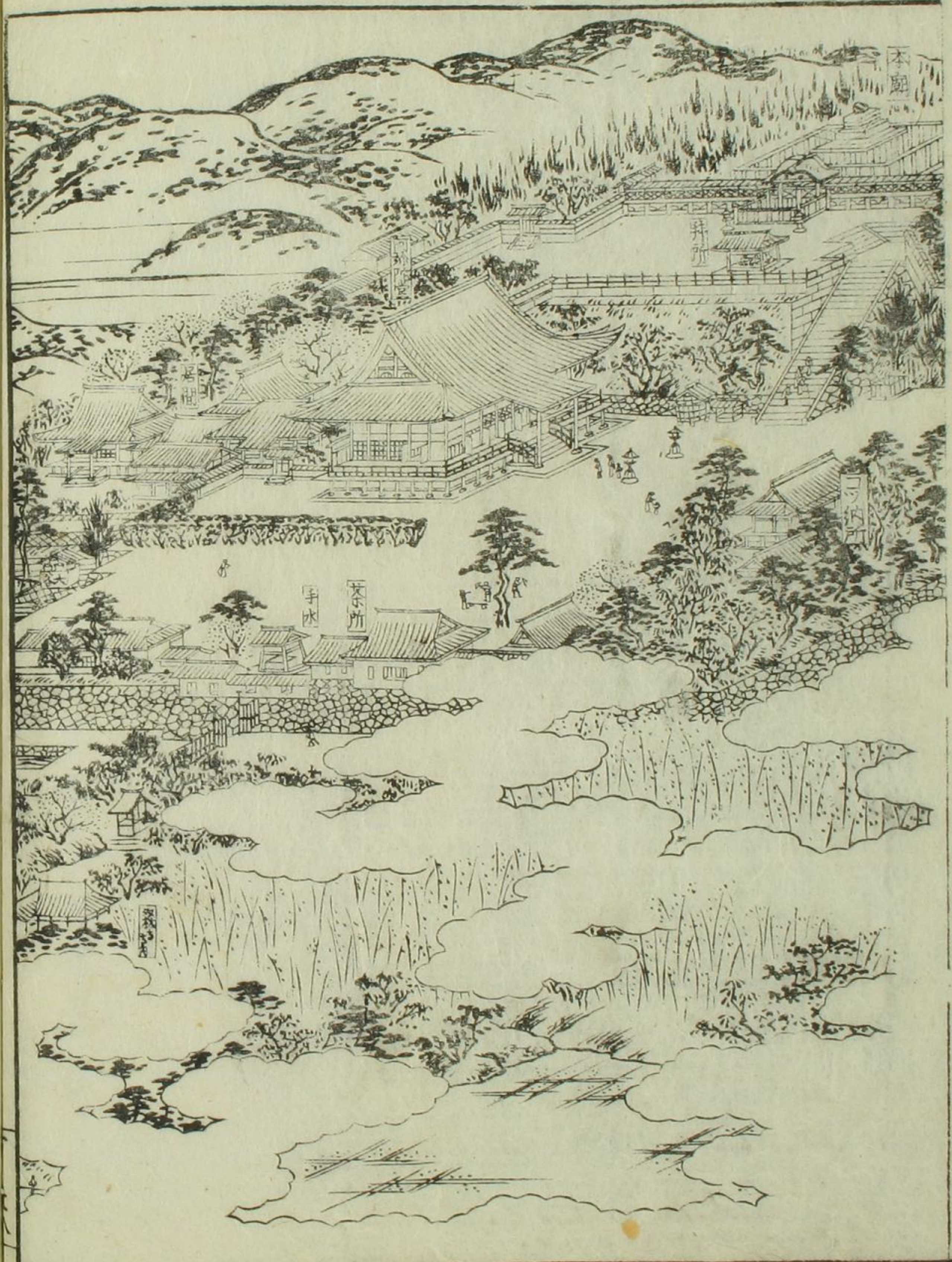
西大谷



宗祖親鸞聖人の御本廟あり弘長二年壬戌霜月二十
八日柳馬場押小法泉寺の旧地若法院において聖人
降土又遷葬はしし日廿九日洛陽東山西の蘇鳥造り
南の傍延仁寺に御骨を葬り奉るまより第三日又
玉門に御骨を移り有僧都御息男印信僧都并御弟子
歌智坊専海坊等御遺骨を拾ひ日廿二月六日を郊外
乃水の傍大谷小納り有りて石碑と造立し終り其後九年九
月二十日印信僧都二丈五尺十三重の廟塔と建らし
こりや印信僧都の御遺骨を移り奉るまより聖人滅後十一年とて文永
九年壬申の年大谷御廟より猶西の方を水乃水の傍より
新地と開き彼遠寄と掘り明し佛圖と建て勅像と安置
し終り此年又當りて承久元年壬午八十九代龜山帝より

本願寺と勅号あり代り御祈願所なるべきの倫旨を賜り
則帝御宸翰の勅額を掲げ終り叔岡山聖人より第二代の
御位職を御霊孫如信上人へ附屬のり血脈相承し終り
か如信上人因東御化蓋よりまはるる聖人の御息女覺信
禅尼此御本廟と看坊し終り覺信尼公の御息覺惠上人
唯若上人の御兄弟御留守職として御堂の南小法坊舎とま
居候して守護のりせり是より是と南殿小殿とをもちお續
て覺如上人第三代の位職をおし終り而してより後御代り
御相續のりせ終り梵宮也覺如上人の覺惠上人の御息男
カレの是より聖人の血脈なりまより以来他姓より血脈相
承して一宗を勢り終り終り濁世の今より及ぶるに在真宗
の法に末代は嫡より西より東より東より東はまはるる仰ぐ

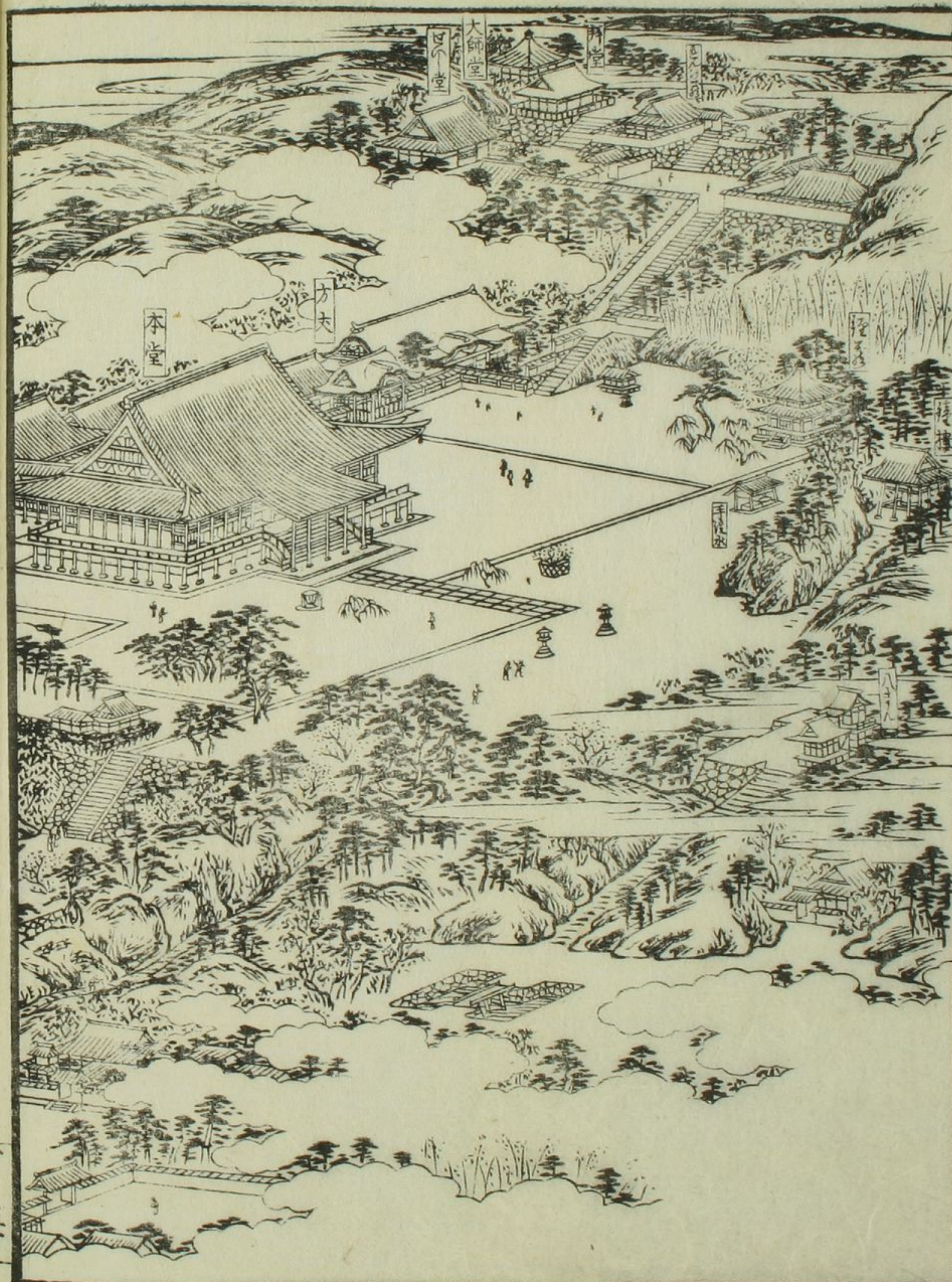
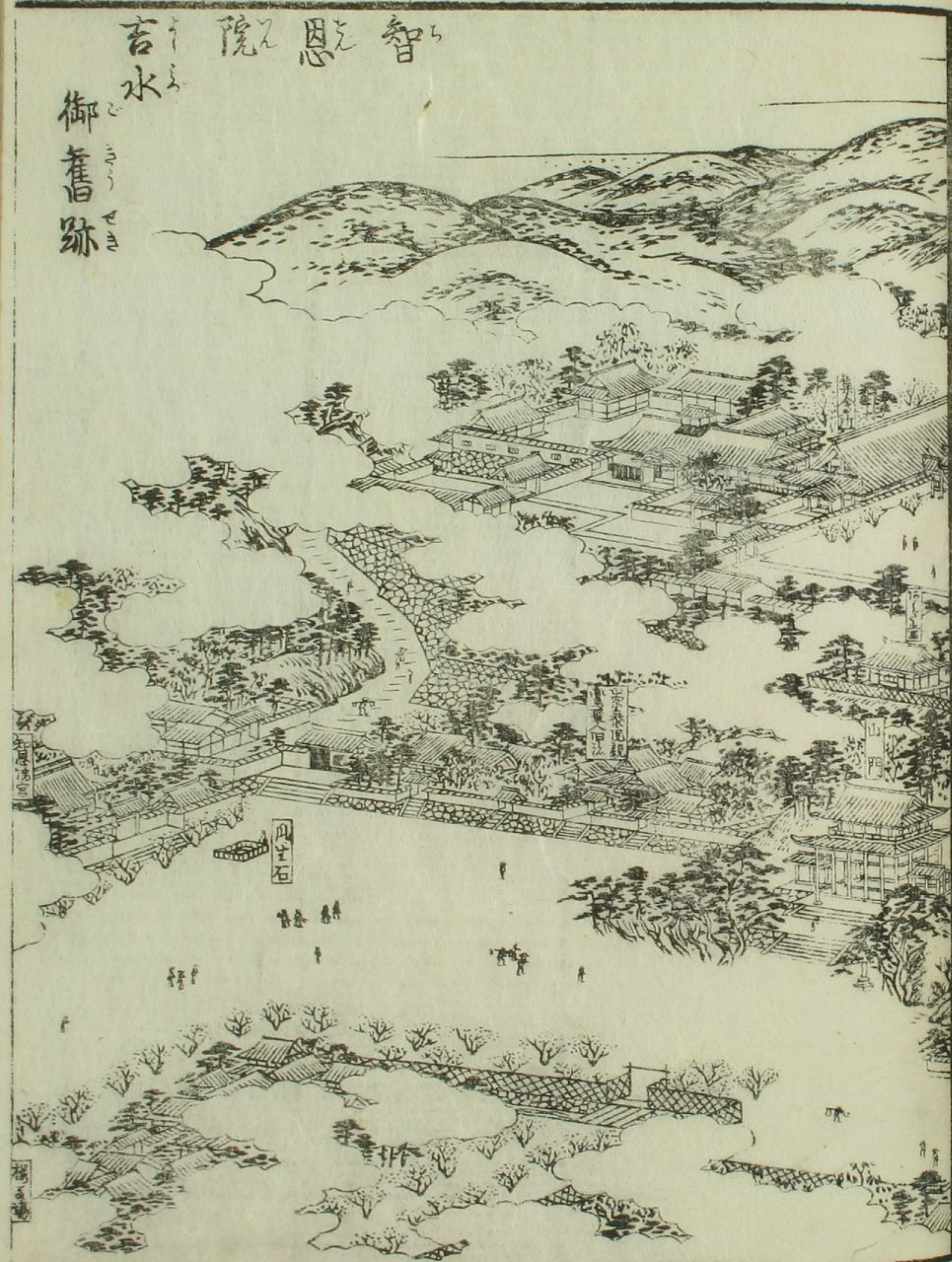
東大谷



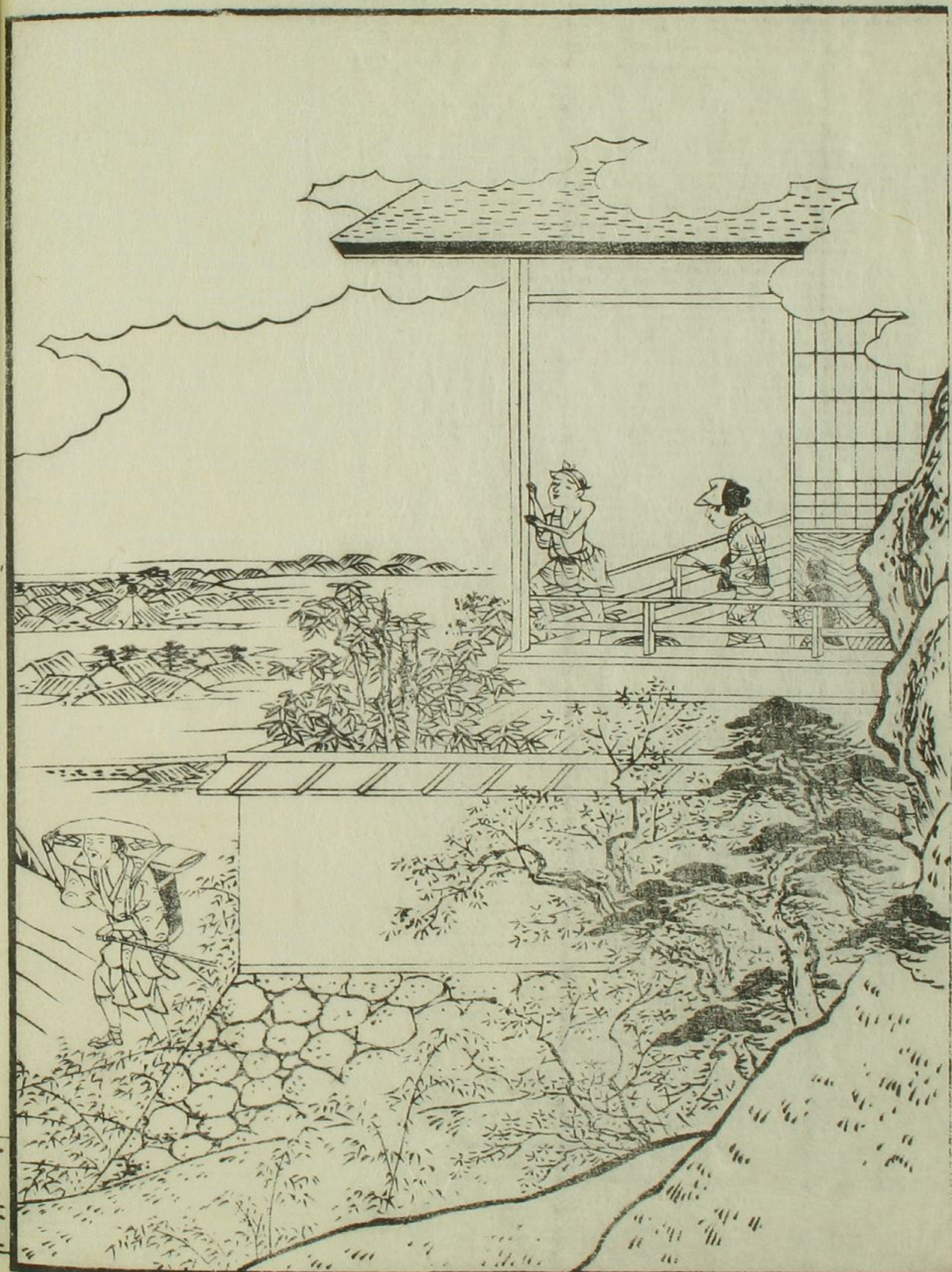
智恵院

言水

御舊跡



丸山安養寺
吉水



安心の正意を弘し及び信心一異の辯論を演じて地力の三実
とあきうめ真影と書寫し選擇と見寫し法脈と相承し
終ふ大師の門徒三百八十余人の中より鸞聖人独一家の正
脈と傳へ日々此禪坊に來りて本願の密意と授けお
はしませし事あり何れもくけ送りこそ御在世の徳を慕はく
志のいとおく境地なり

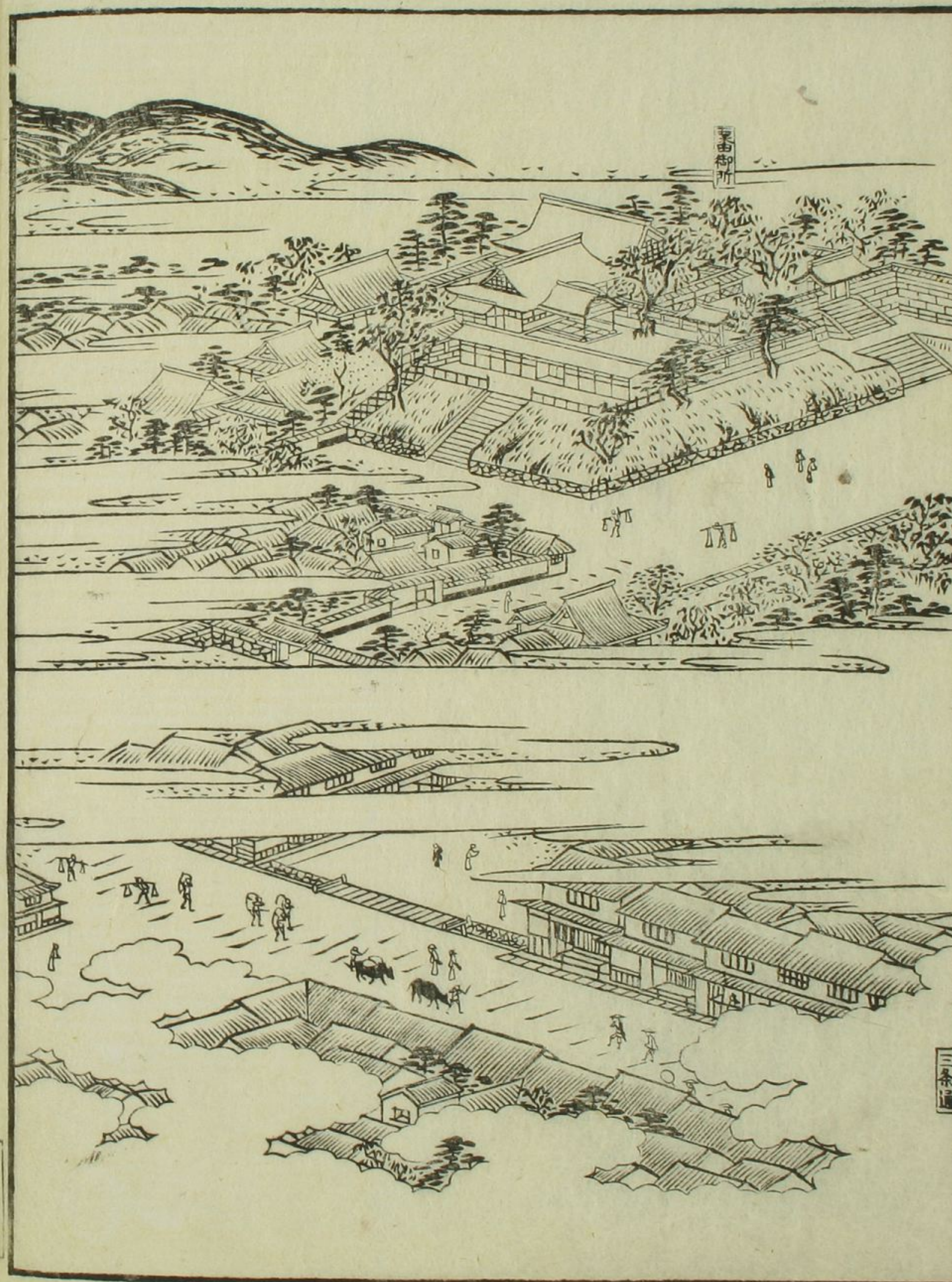
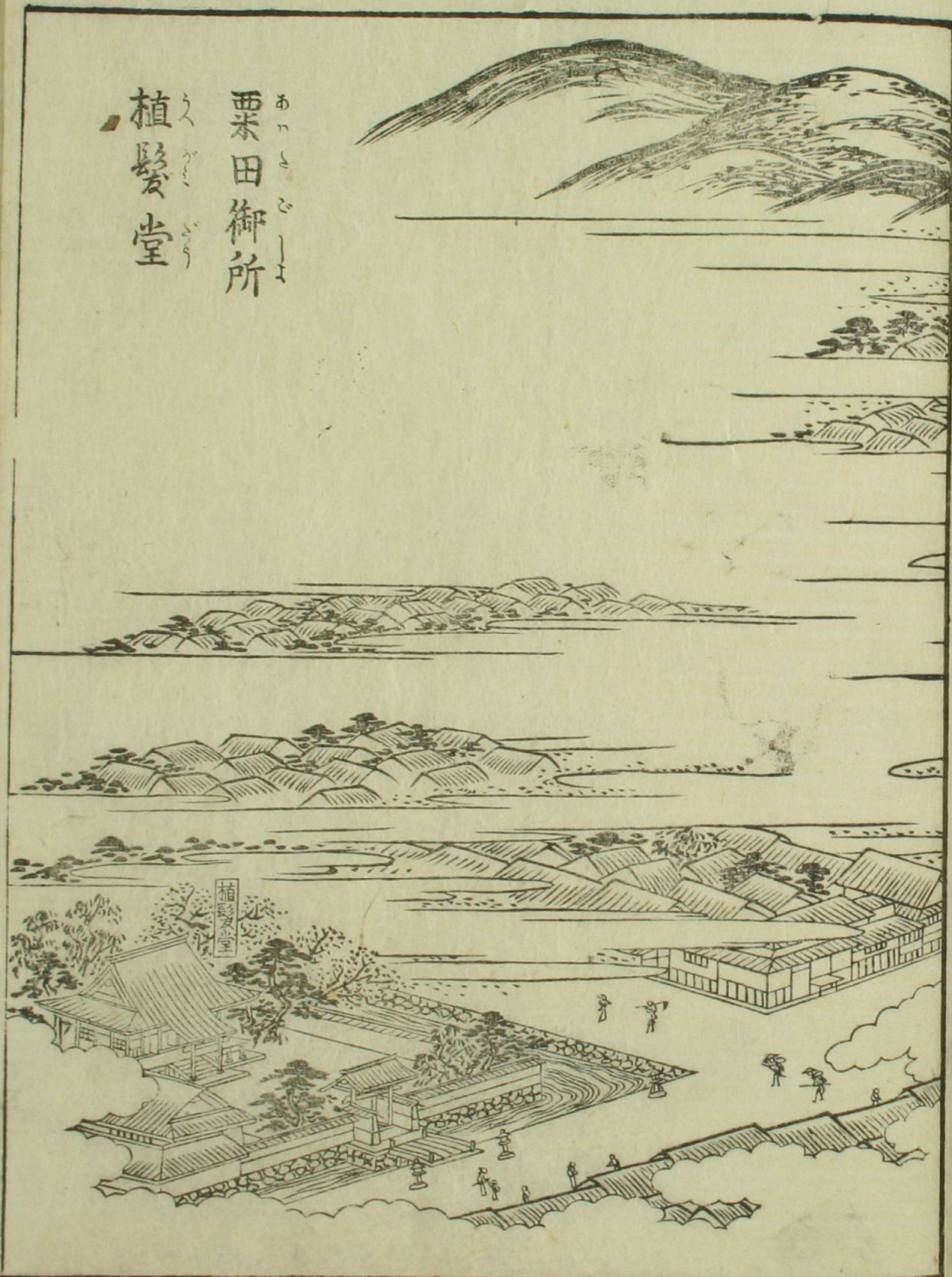
栗田御所

蓮院御門流と稱は

此御所を姓古高祖聖人の御師能慈禎和尚の御院室なり
抑高祖聖人の人王八十八代高倉院の御宇養安三年癸巳
の年御誕生はしく御父は後原乃妻姓皇太后宮大進有範
御所母は源氏の武母八幡右郎義家の嫡子對馬守義親の
姫君なりと吉光御孫と申す吉光御孫と申す吉光御孫と申す

菩薩枕より交せらば汝より一子と授かんこれより西の方より
乃徳化ありとく又松と交へ終ふ又忽ち西の方より
金色の光明に盡くす吉光女乃口中より入ると看たまひ
そより御身出たり御懐胎よりせらば月光と御
男子御出生たり松と名つけたる二女と御御言り
南無阿彌陀佛と唱へに案の御時二月十五日に生れり
まて佛の教と傳へせしこれ御孫と稱はれり人として御
せざりたり此事實委くに卷傳より見へりかたのてくは難
き御姓得るに興法乃因うらにきざし利生の縁外に傳へ
終ひて既人王八十一代安徳天皇の御宇養和元年癸巳
西三月十五日御年九歳なりけ院室に來りて慈法和尚
乃御孫とありとてり此御孫と稱はれり

栗田御所
植髮堂



岡崎御坊



君と名つけ給ひしと云
 植髮堂 三條通粟田口あり

藤智坊の河瀬
 姓能河發と判る

花頂山阿弥院寺といふ喜蓮院の宮乃河別院之親鸞聖人
 九歳の河邊と河自他あり其児發と河首又植たまひしと云
 河を名と安んせり

岡崎御坊

治陽朝長谷乃南隣
 岡崎村あり

東本願寺河抱持り河堂なり柳此河坊の祖師聖人二十九歳
 達仁并一辛酉曆春の以難幼乃小海と出く易幼の大乃
 疑き唯専念心業乃勤めり門りしと云隠道の河身とあり
 閑居し終ふ所の美場なり二十九歳より三十五歳まじけ河
 坊又恒居まじくくろく南山の河河又依て終る遷の河身
 と云し終るまよりころ二十余年の間まじき暴屋のどく

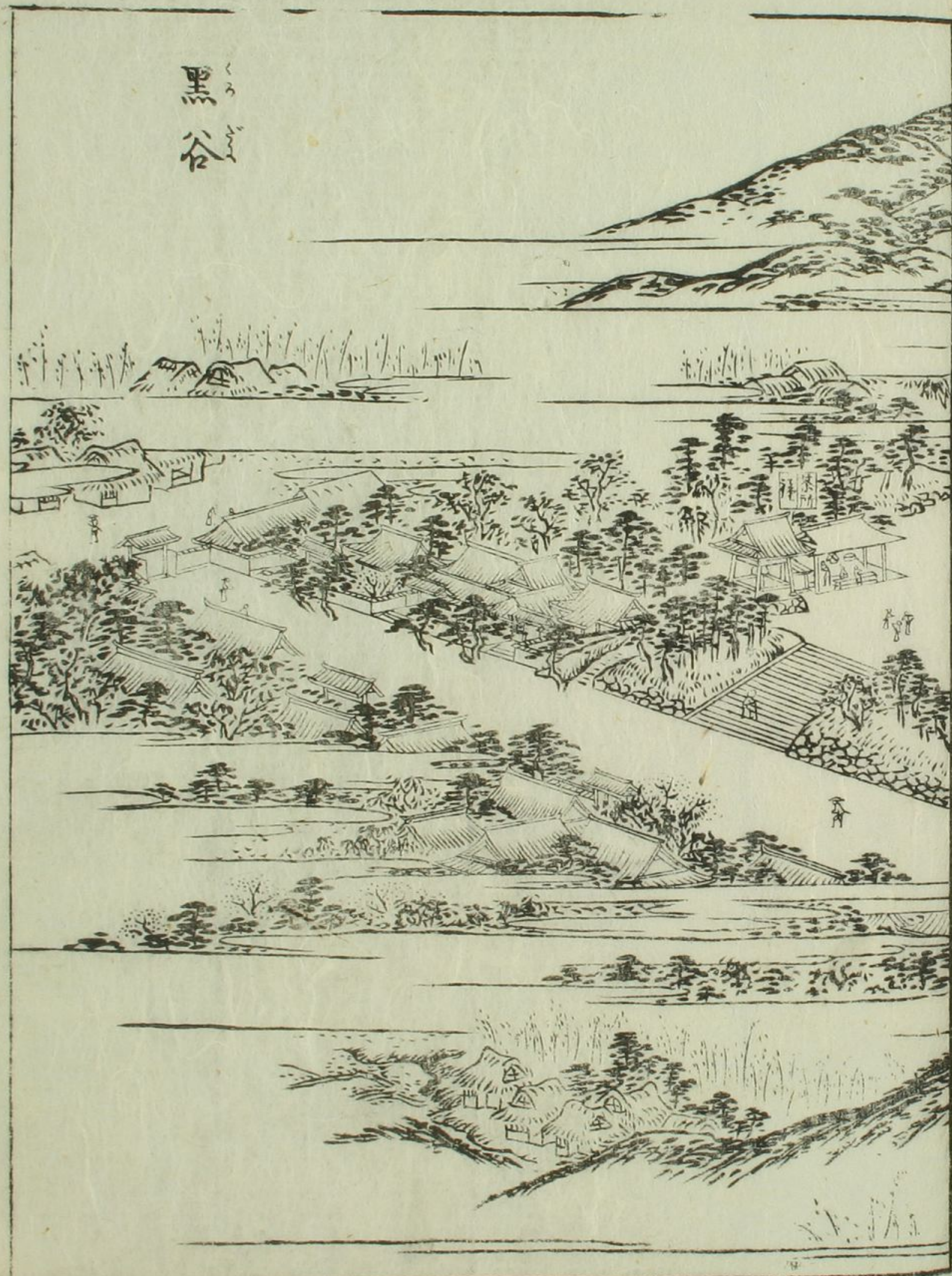
軒の月の影にて鴨の春信の物表と見えしは
既み六十余歳なりし所降洛の砌九條殿より河修徳の
て五條西門院の河坊と兼帯しと安ん通ひ住居せし
たりとあり河坊内み聖人朝夕みつとせ給ふ古安なり世
お納言舟戸と稱するなり

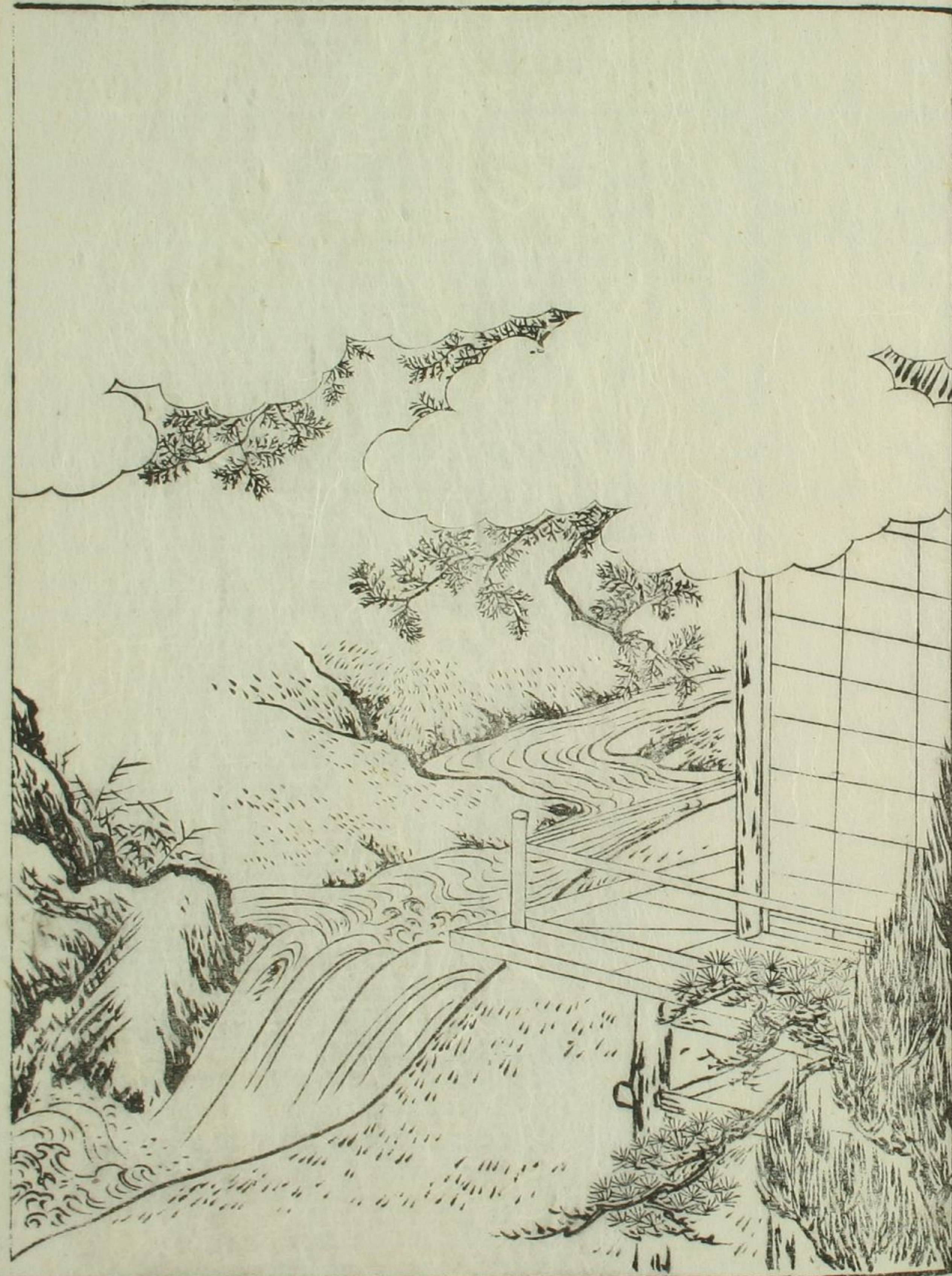
新黒谷

紫雲山令戒光明寺と号く法統上人二十又歳なり比叡の
黒谷山出く諸寺諸山を巡り名匠知識と号て諸宗の奥
儀と号め河年三十三歳永万元年に月の日より近衛坂と
不み安房と号し閑居して一切經を教返披見し給ひ安ん元
年乙未の年に十三歳なりと津去門に入給ふと諸傳み見え
たり則近衛坂の居室に今け令戒光明寺なりとや

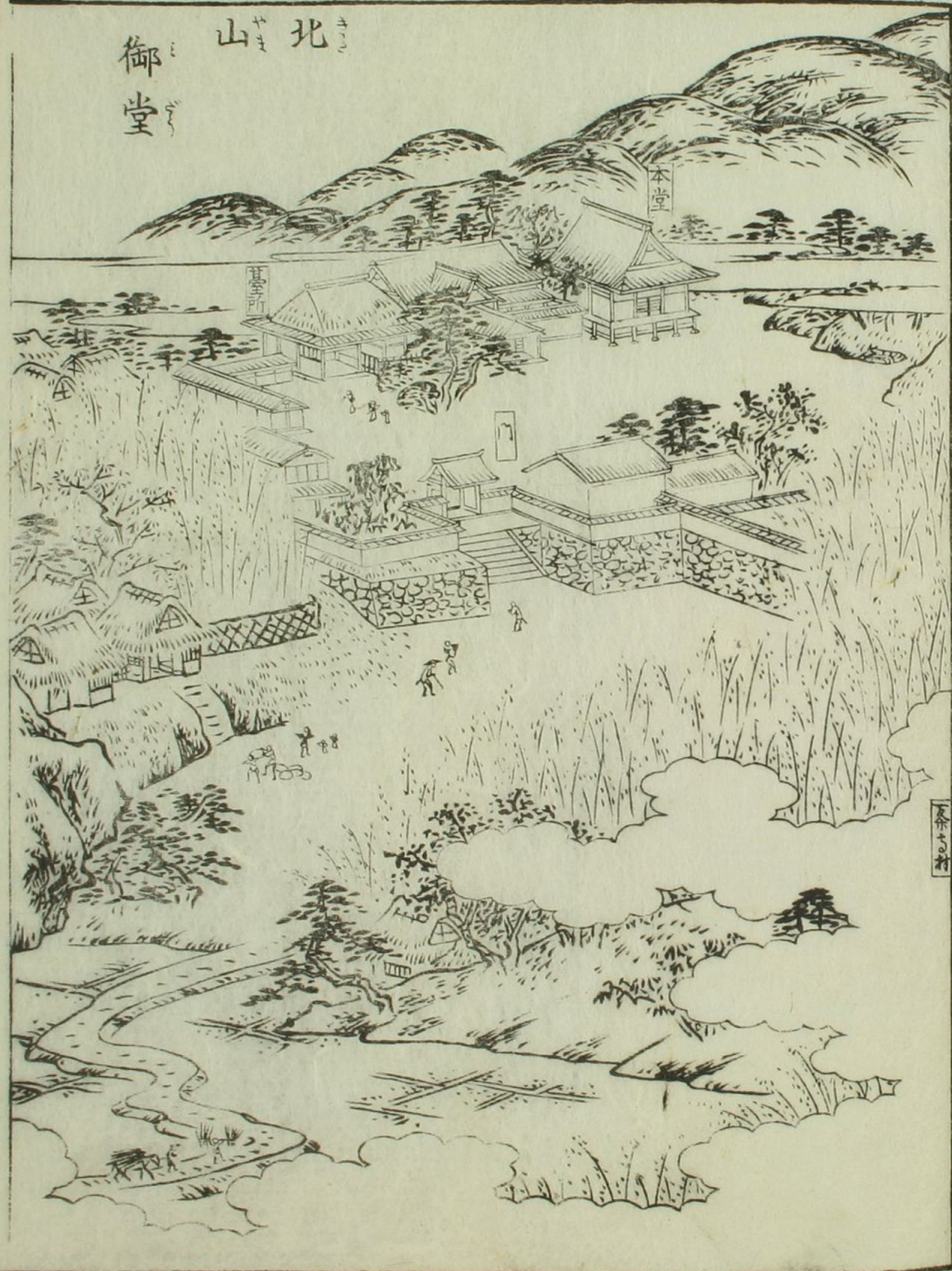
は来既純じてるゆき靈地之具け新黒谷阿弥陀堂と親鸞聖人の
像と安んせりされい両上人を遷の河身と名西海山城と遠く別とせ給ふ
河坊若く河別と号せしは河容貌と明鏡又号し河は河自身
河次女を号し彫刻に記し河記念として給ふ河次女は
て法統聖人の河本像の佛光寺に納り親鸞聖人の河本像の
今黒谷と傳来せりと則佛光寺の像祀み見へり山の頂上
三重の文珠塔あり中置元祖大師乃河墓なり石の左右
慈谷蓮性坊を敷盛の石塔あり文珠塔より小細石ありて
其如堂（妙側）乃万日半紫雲菴あり石に紫雲石と見え
石あり法統上人の小まきせしと見え石より石と紫雲
石のり河房室乃と見え鑿しとあり尚其如堂と黒谷
の界と昔乃近衛坂の飛石のりて見え

黒谷





北山御堂

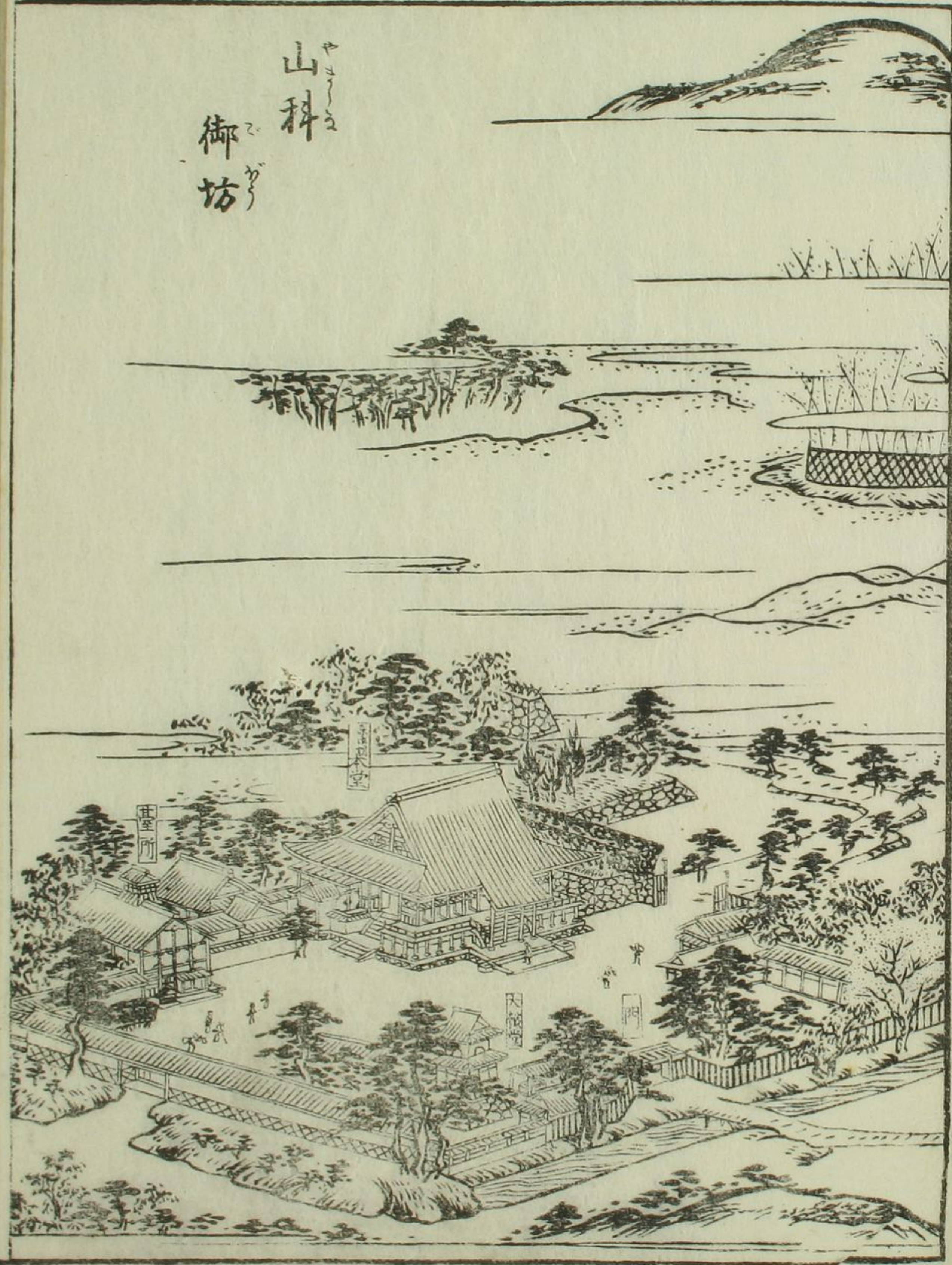


小山御堂

一條寺村あり

比叡山雲母坂の林蔭修學寺村よつぎる村之西本願寺河抱
 所往古の舞樂寺と名つけしが今の信好寺と号しけりや此寺
 其若高祖親鸞聖人比叡山上より雲母坂と麻止て洛陽六角
 精舎へ百日乃參籠し終入附每度此寺に立寄せ給ひ堂の板
 椽み河腰をかけらば体らひせ給ふ古流之則堂乃丸の高き切
 岸より細く流るるあり聖人終りき山坂と通ひせり是河息
 の切らんともふくみ立寄河多にむまひ飲せ給ひたるあり此
 水を聖水と名つけ山号と聖水山と唱へたり其側石あり氣
 を聖徳太子乃款白石と号く或附聖人此山水又濁を止
 め給りんとく立体くひ押はしつるふ忽ち十又六歳身と刀ん由る
 皇子け石のとみ取いさくわい小聖人衆生哀愍のこころば

山科
御坊



蓮師御廟跡

芝野大古堤の西外より古松十株むらり見ゆ

西流御坊

西平教寺御門法術持山科村外あり

東流御坊

東平教寺御門法術持山科村外あり

日懸山永福寺

東流市田村あり

尚寺待若の天台宗より叡山西谷微妙院兼帯の不二傳教大師乃美神教觀法印延暦十八年建立後奉美因法印寺勢の湖高祖聖人入入門して真宗の佛場と為り蓮如聖人も一七日の御淹留はまじし又織田信長大坂の御本坊を攻て合戦み及びし時尚寺の住持折言法師一命と抛く大坂(御加勢)ヤミとつり什宝田舎之

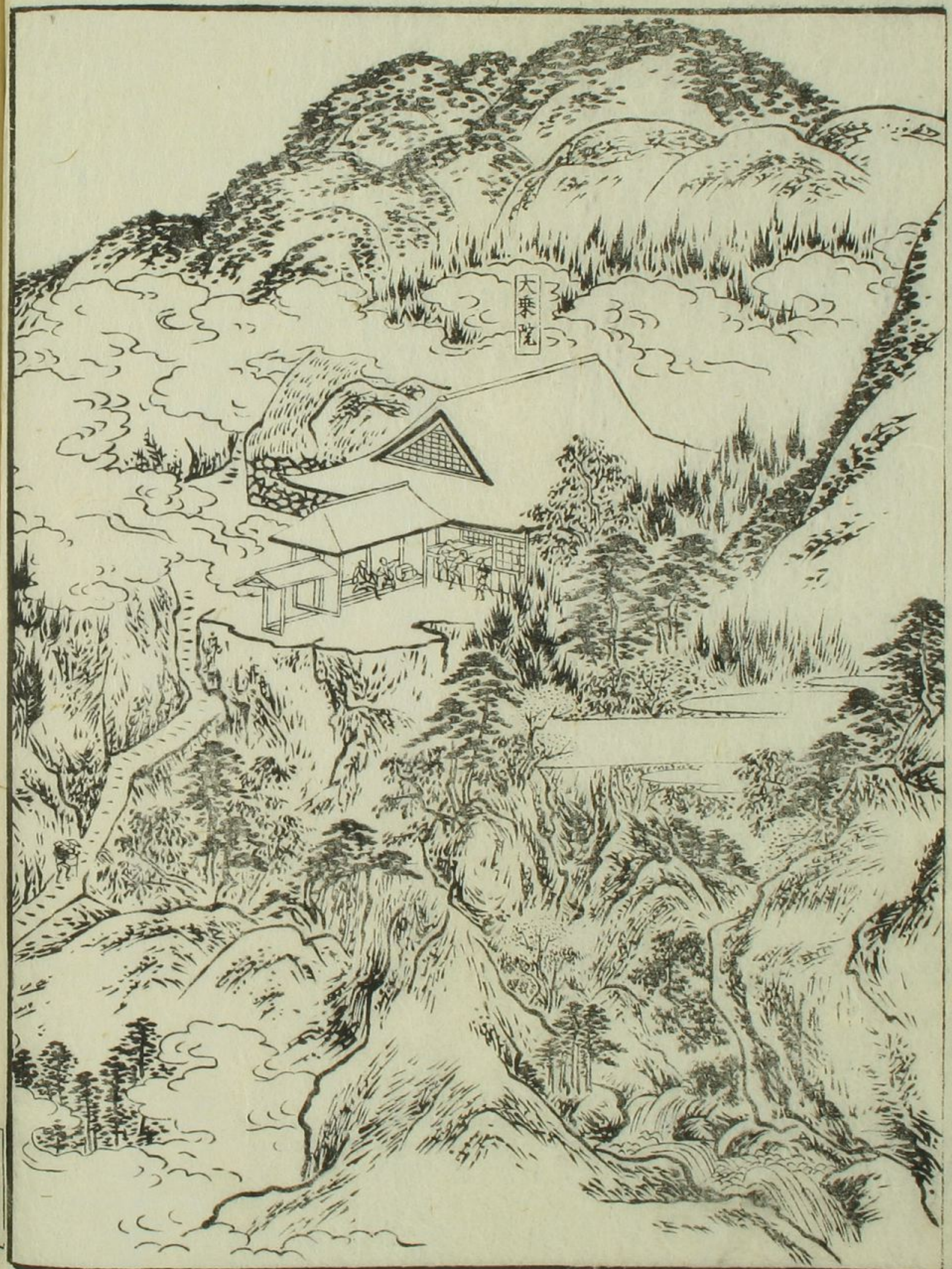
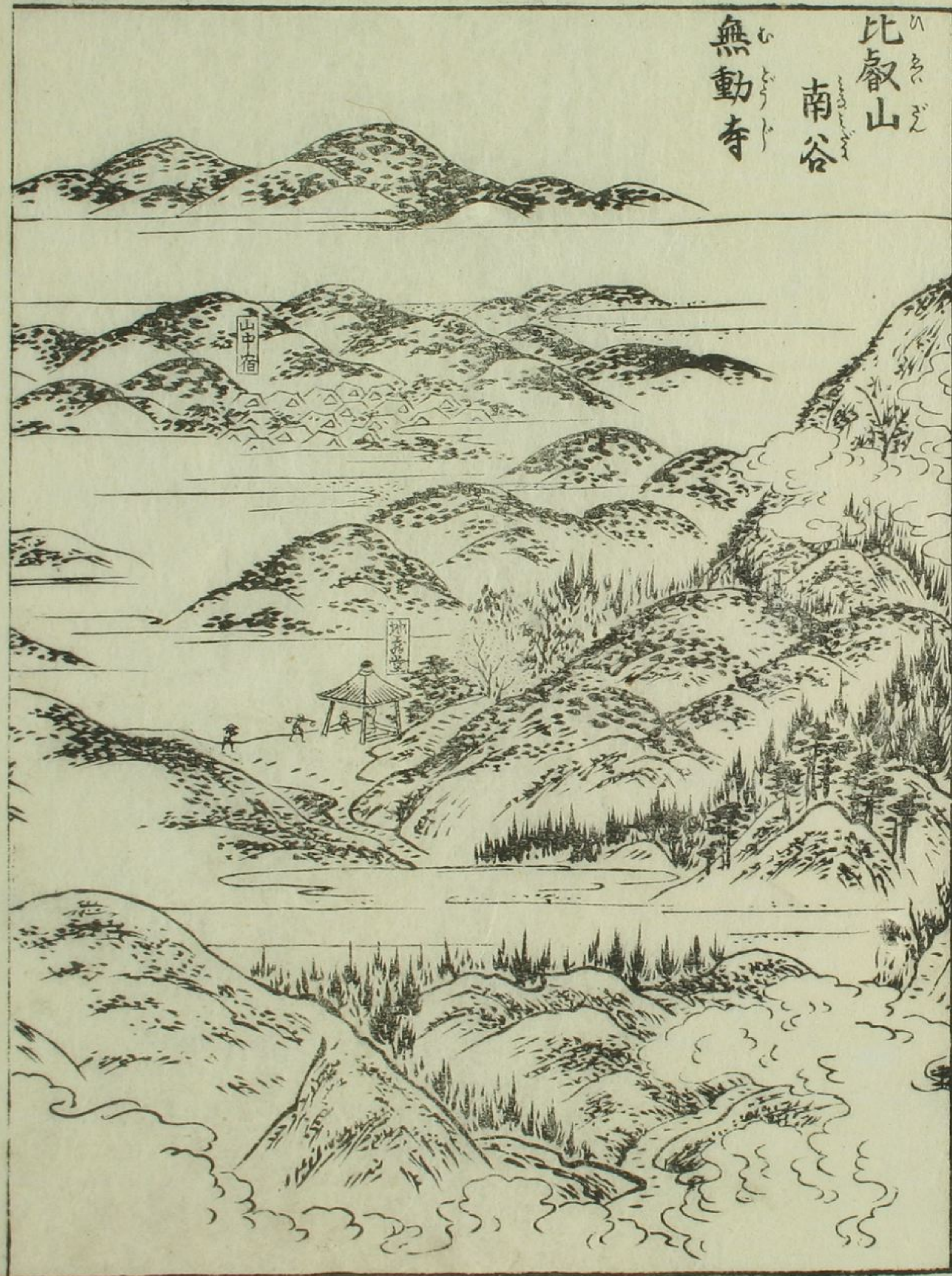
近江國

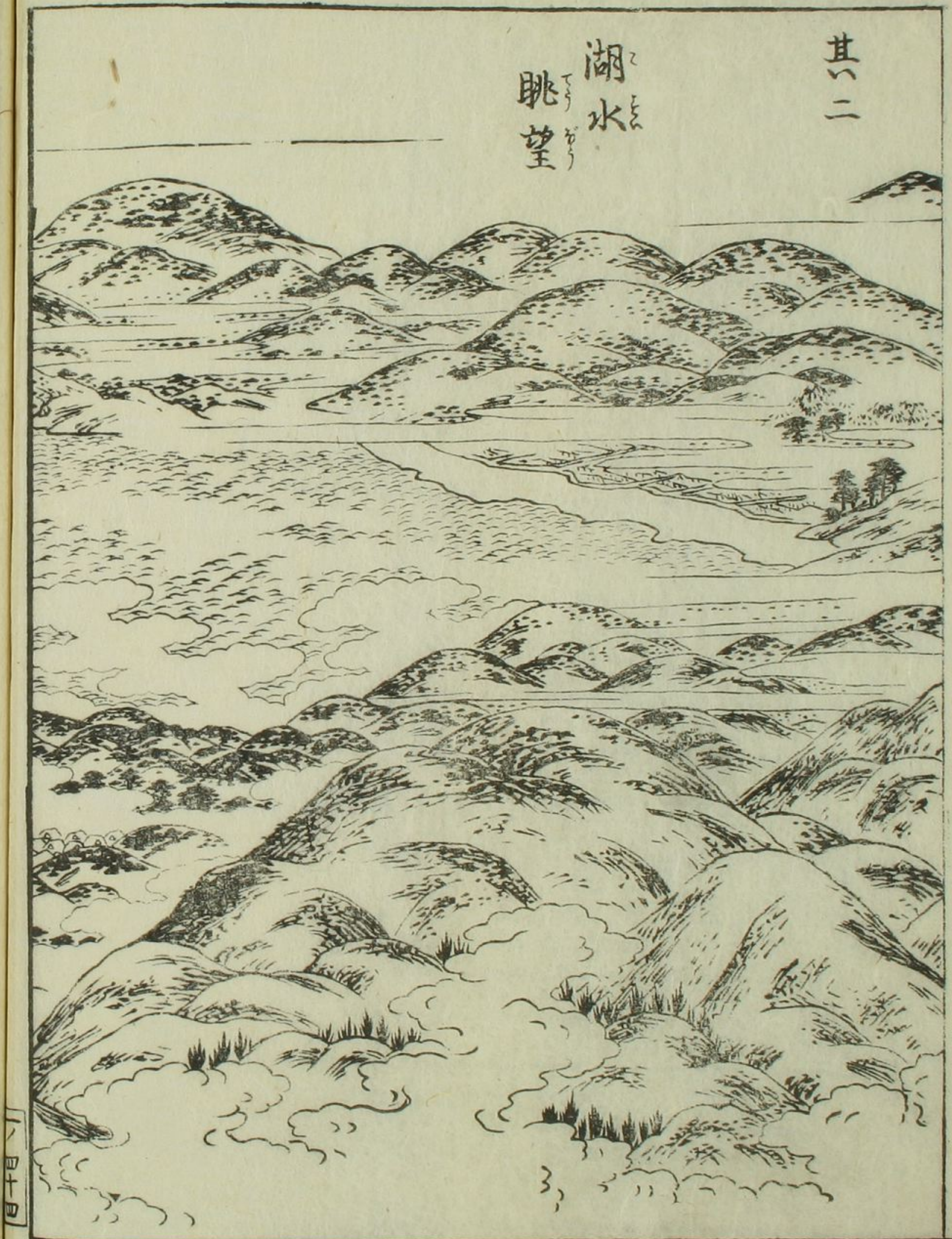
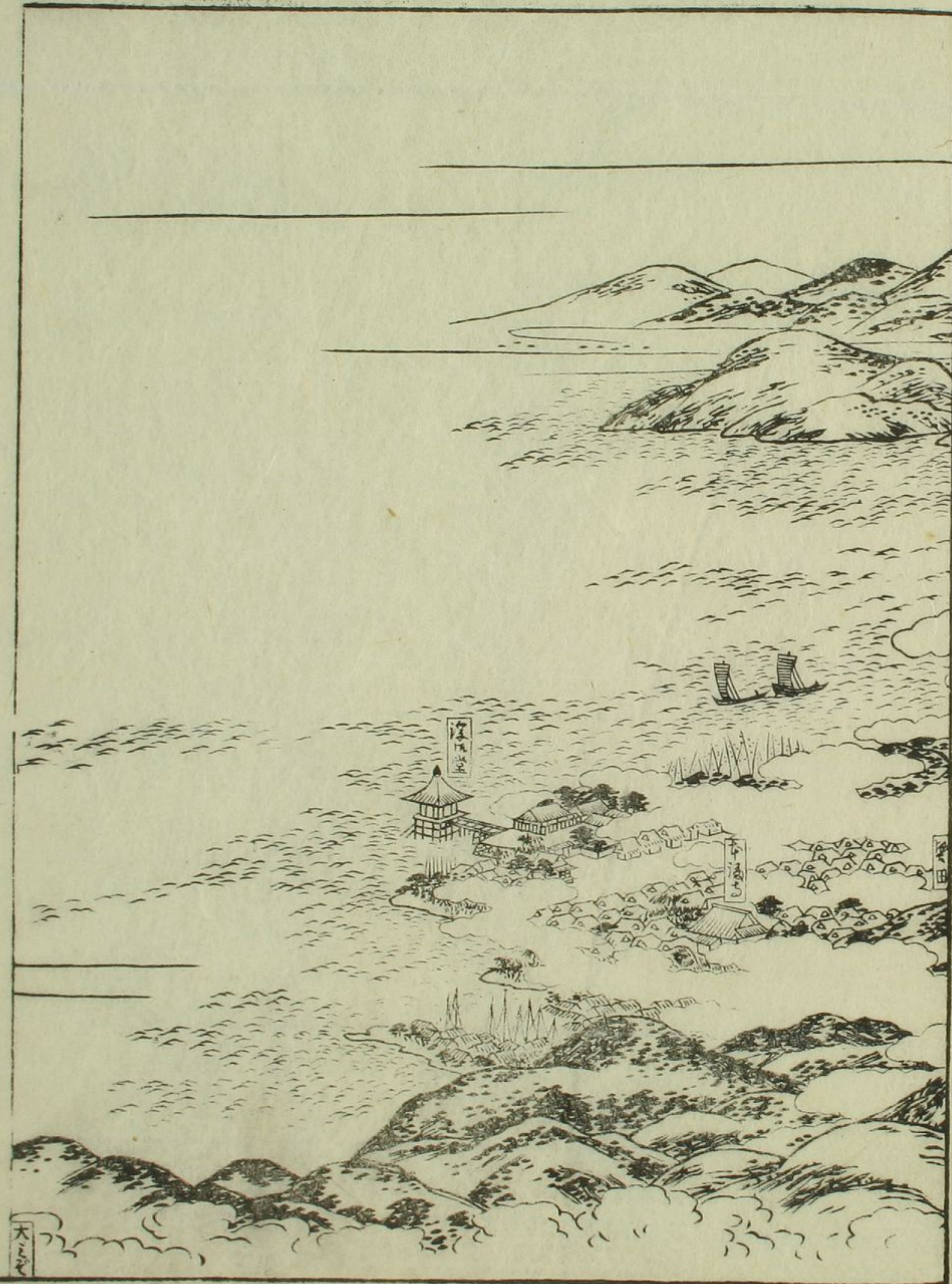
比叡山南谷大京院より江州坂本へ出る妙徑二十五丁

○坂中山王権現の社あり創年に月中の朝日山門の衆徒多神樂を捧げたり松後よりまつせ湖を後に唐崎より後河をせり世伝これ山王の甲斐なりとつり衆徒とてし駕雲丁雜式ありまが風とらふより此れと還河のたにありて神勢ひより此れ巴かさまぐと罵りあひ別れり此と押合ふとあひ馬より為本の根はまづと狼狽せり此拜と指しをとの道徳多ひのちりて真と凡け多れ延文年中よりてつりつり

○琵琶湖は日本第一の大湖なり南北二十余里東西十余里其かうら琵琶湖は似たり湖の谷とせり其勝系絶えよ押けるや唐土の西湖也此右に出るは西面より比叡の後炭蘘花と傳へ流す王城法渡の靈岳都の富士と稱するもしんけんの長勢寺跡に違ふ事あり琵琶湖大湖と只一目の中を看し深く湖ありてのべらるるに志望の聖奉修の松の直又眼よりあり右に三井の古寺大津の跡跡石乃敷郭敷田石山の陽地あり奥田の渡津寺は良なる根白松の社竹生跡をそらう小島よりなるあり近江の富士と安えらる三上山より見えたりらんつり巨松伝て江海に冠るれり後太及系系御安のふ蓋りれは彼巨松をらんり一々に付て其後継り龍宮城の教の法室を得り其中は釣鐘の響きめでたくと三井寺よりせり此こそ

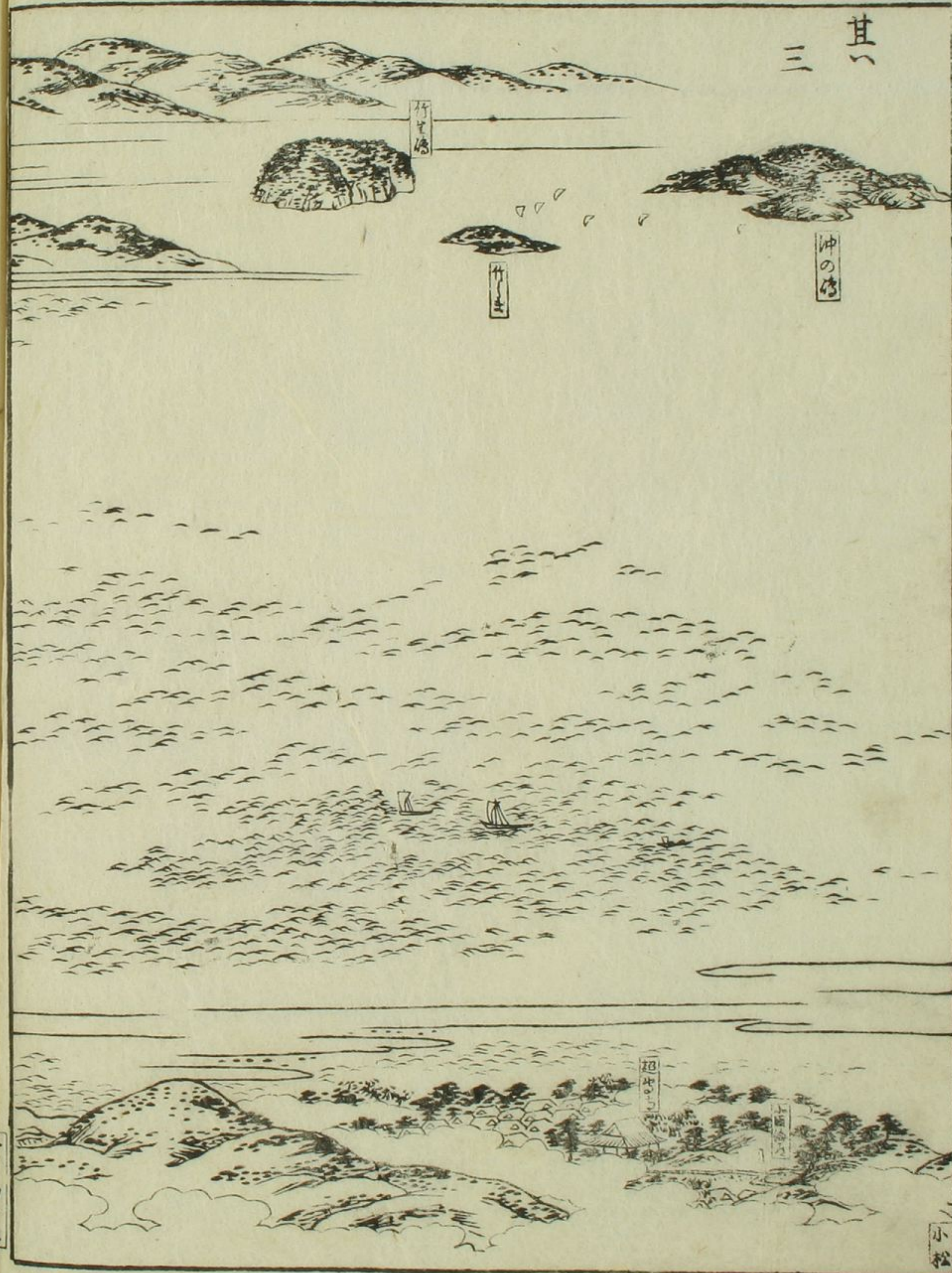
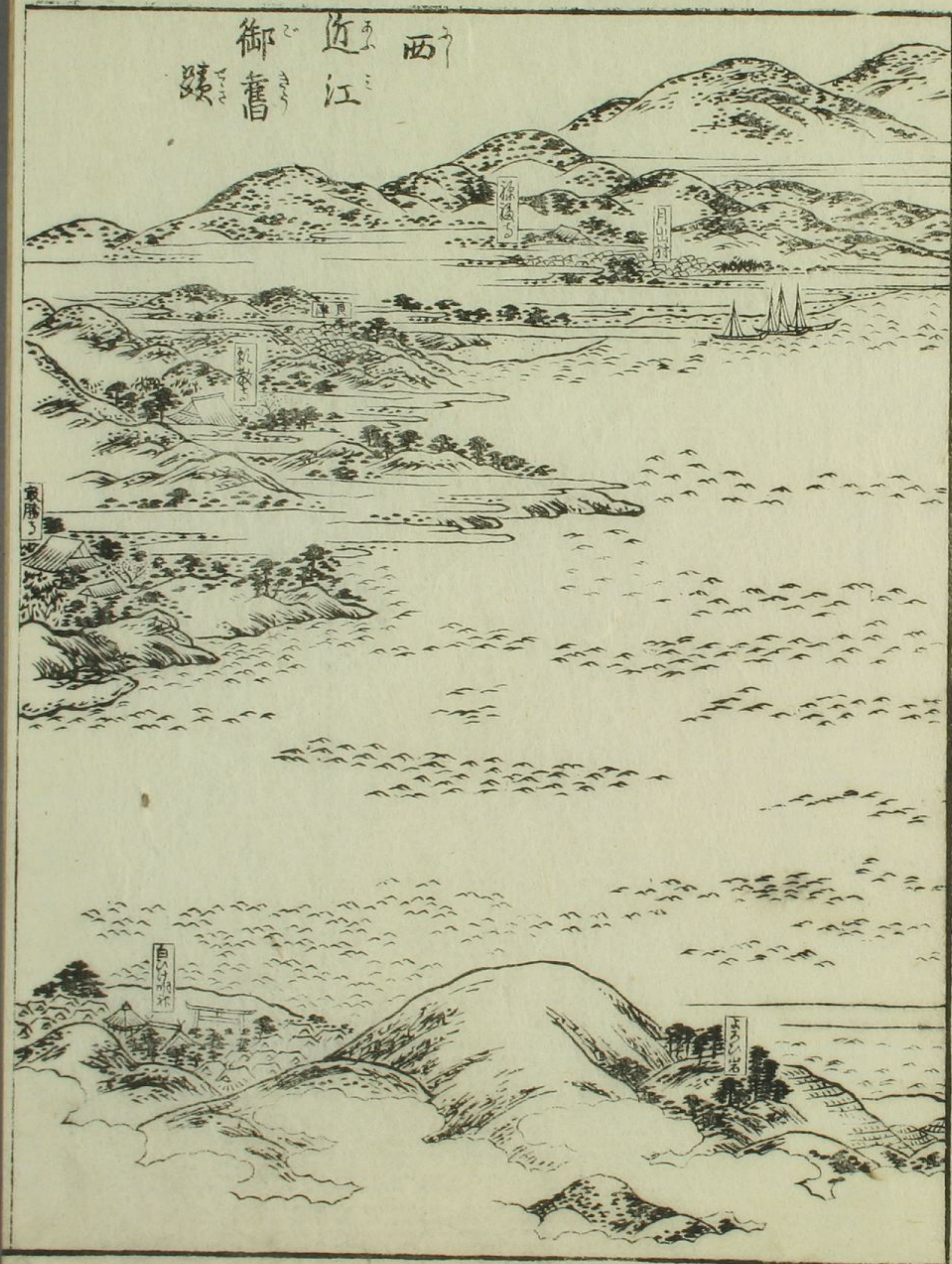
比叡山 ひきざ
南谷 みなみや
無動寺 むどうじ





湖水眺望

其二



三舟の種是なりと里俗のつひ傳へり八幡表根長渡と云ふ
 湖の東につらなり小道は小なりてい志津嶽余吾の海ありけ不
 ち豊古園いまで御宗流宗守よりし附柴田勝家と對決ありし
 右戰場なり柳中河内と經て御宗にあり塩津海津の湖あり
 此源より御宗の畷又隣より凡湖ありの名不曰汝悉く御宗より
 了まわつて今度少は聖人の御田四廿二に輩の巡活又はまき
 古歌名不又い風系乃勝地と書集むと人とも傳てりや溪乃
 表砂の標々れりれらるる夕のまきりくしるる人乞と懐むやうれ
 ○志賀の里は比叡山乃林藤湖水の隙あり幸傍の二ツ松の湖中八
 系の一ツまで世人名本と稱せり
 一類の雨は多風添く夕風を余はる名まきりかうされ乃松
 ○坂より山の方衣川と流りて湖の口丁半は柴田浦あり乞又八系乃
 中より流りて系をいん方はし渡御堂の湖水の中は建て渡り
 石橋と渡せり惠心僧都の住り終ふ御佛を安んせり
 一御ひ方柴田の池よせりあゆむやなゆひ乃配のゆり度
 ○柴田の浦は蓮如上人の四法夕陽山并後寺といへりあり山王御記の附
 ち小松よふふ湖あり又出て津島の新松よりうり系て渡河と流
 りてしき例ありとぞ

去時入にのちき歌名所なり柴田浦志賀村あり
 一勢味く去時入江の流風は尾花波よりあきりゆいよき
 比良のち根の白雲瓜輪くく八系の一ツは体志賀郡大物浦
 一いばや比良のち根くくけり物とる登の池入ぬんち

念佛山延壽寺 西流

坂より山の方に里
 志賀郡大物浦あり

山の坊室幢院よりい常州下妻西本山光明寺より別とる寺
 ちく高祖聖人の真身明空坊の流と云ふなり又常州完戸唯
 信坊の種と持て西流二十に輩の内第二十番と云ふ

○尚寺傳來の什物よは○親鸞聖人御真像十卷の石号○聖
 人在上御給 蓮如上人御筆 其外什宝多しといへり

○大物延壽寺より二里半小お抄りし村は比叡山並勝寺といふあり
 蓮如上人の舊地なり

○白髮大明神の社は比良の山の尾勝おとらし「の渡邊よりあり系津と
 後田表を津よりけ傍より湖水一面の眺見竹生勝多氣勝神降といふ

凡そ云々...
○に十八所村と云々...
と三十入神と云々

願教寺

東流 院家 海津

齒寺の高祖聖人... 真言宗とありし... 寺内は七百年を... 梅の古樹あり

朝日山稱福寺

西流

海津より三里... 月出村あり

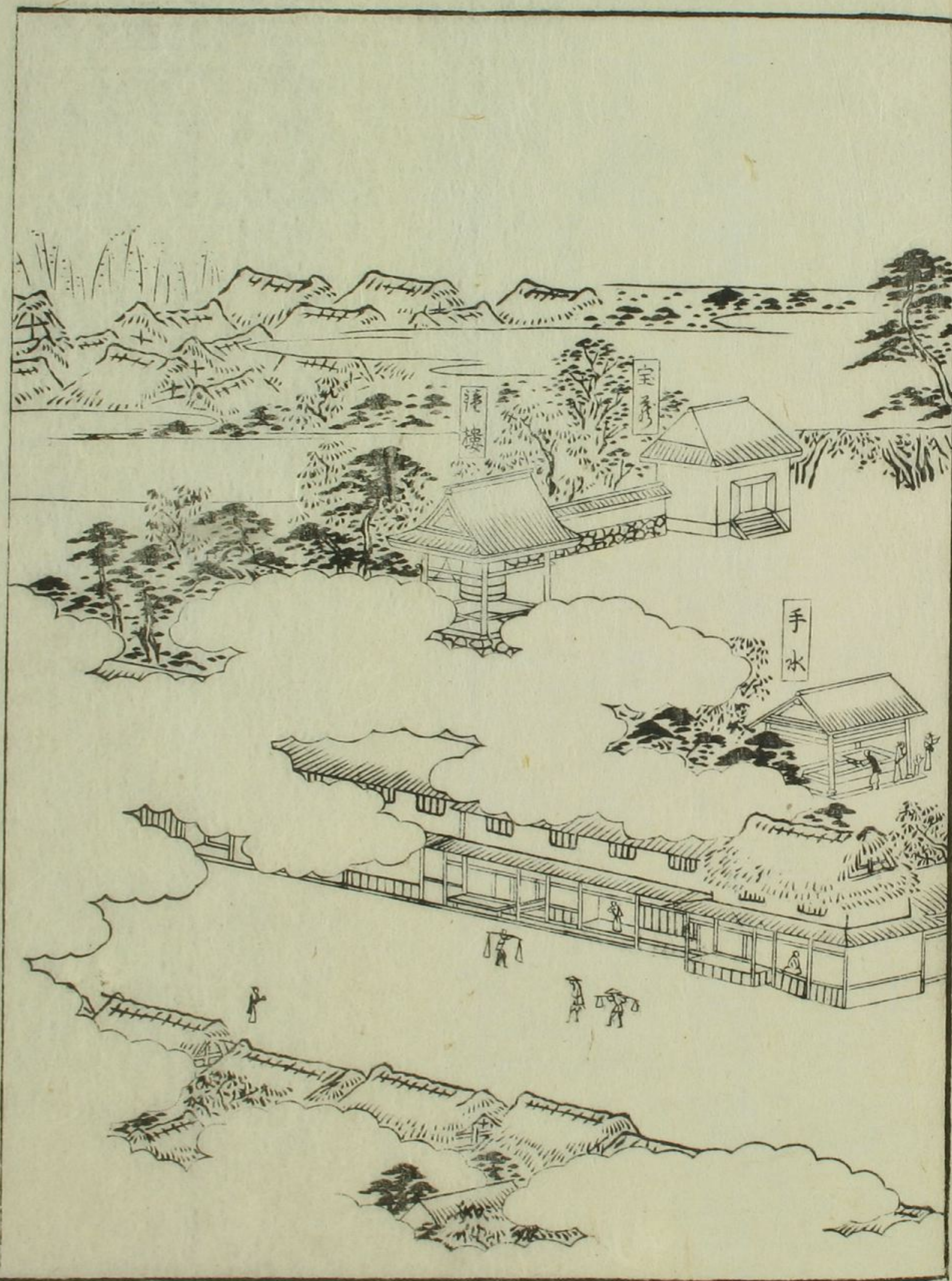
齒寺と二十に輩又屬... 閑東より引寺と云々

此地に方又村あり... 緑樹の蔭水亭小流... 風景滋又福民多

竹生傳の淡舟郡の湖心... 奇石水晶宝珠とせし

○湖水の山際陸岸...
○本寺の石の志津...
○長瀬乃瀧あり...
○山を竹とて城法...

○後摩明津の社...
○月朝日かり...
○祈る小己が...
○つとくく...



寺に 宝多 満





招針跡の石を母を
 と番場の圃あり
 碛に茶屋あり
 けりより琵琶の
 水湖一月よ
 見え風景
 言はれよ
 壺一
 ぐく



おんまのつしまのありてやせりつとる人の端のこゝろ
表根のやうに依和山といひし地より當時舟作廣の所跡下あり
惣花の地と云ふる表根より表根よりあらはれりて多分船の宿あり赤玉
津丸は石の石物なり

○多賀の天社の表根の東南大上郡あり舟作廣命と云ふあり
○聖智川も高宮と武佐との間の宿あり

あつ川も名を以て揮のえとあそむるは筑紫のつらみと云ふや

宝満寺 東流 聖智川あり

是より西に宝満寺西方寺錦織寺近松寺あり舟作廣の所跡あり奥に
池といふれども近にの國中より舟作廣の所跡ありは表より縁起を述るべし
治の石は寺号と縁起のこゝろあり

本堂十一間に面なる阿弥陀佛の安阿弥の他之由寺徒若の真
言密乗の寺なりしが高祖聖人御降臨の初由寺止石はしく
法筵と開き移ししより既の本宗と離し真宗と改め今より六百
年来移將なき靈場なり

廣滑寺 西流 武佐の宿あり

此寺も聖人御降臨の所開闢し終る舊地といふ

西方寺 佛門臨御坊八幡あり

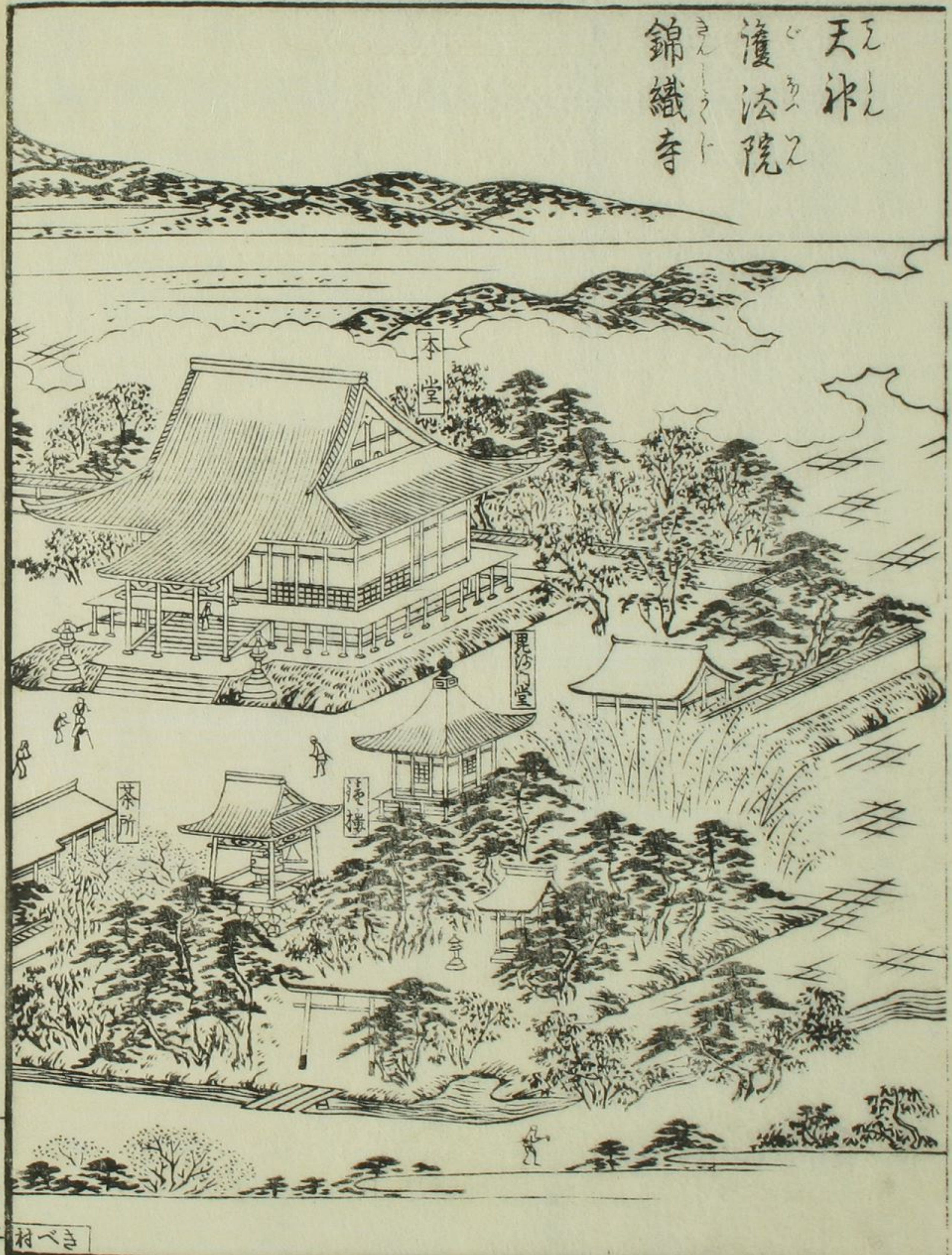
二十に輩多し西念法師の送跡なり本堂十二間に面高祖聖
人真他の影像と安直以靈宝教品と累石

○武佐より一里南渡の名を以て石の残山あり黒石の跡
いふ山いふとより見てゆん年終ぬる所の老やまぬると

天沖渡法院錦織寺

此洲郡本都より海に表の二ヶ所此寺指雲上連つて別當の
僧正に任ずる所兼印地なり 横寺坊舎六區

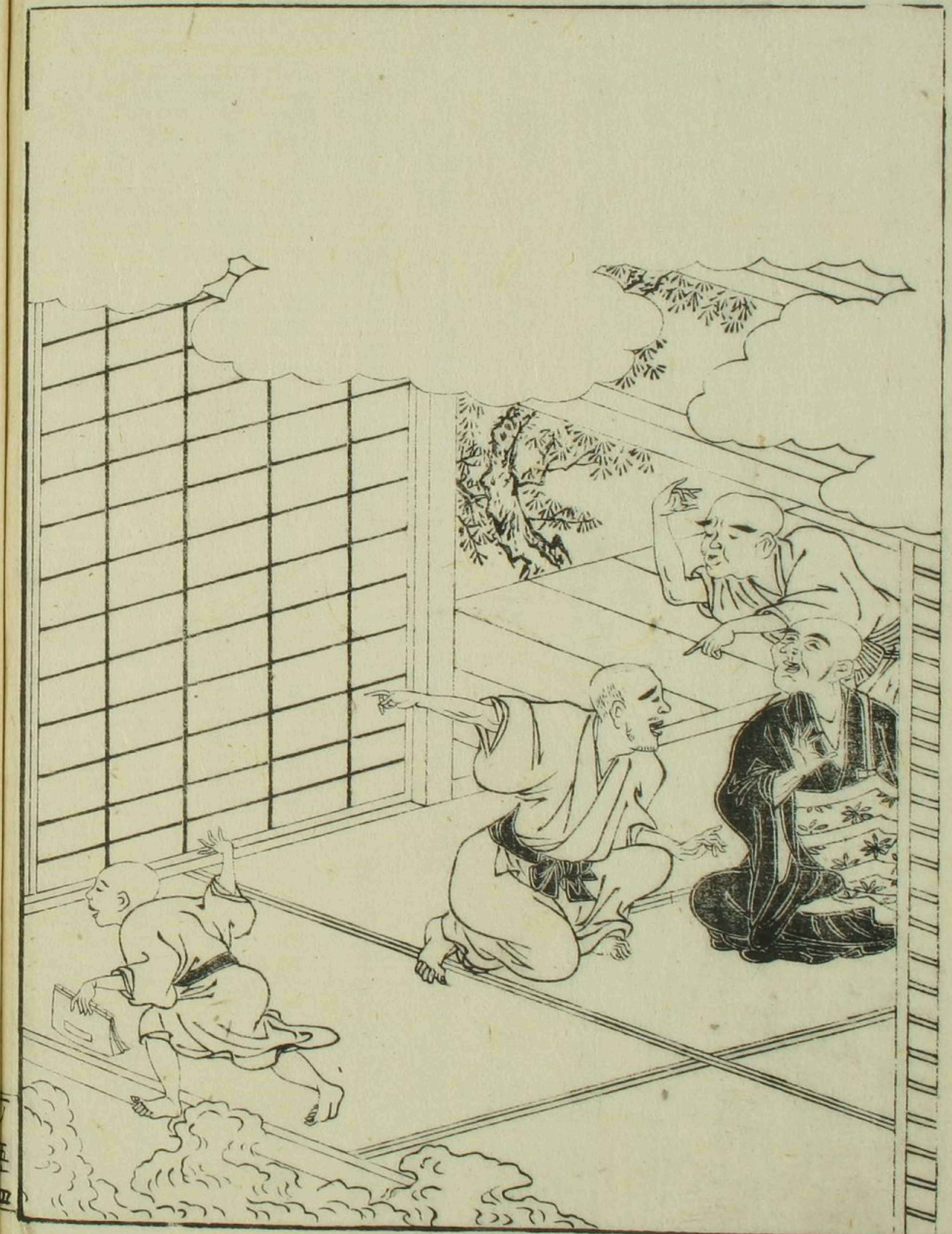
本堂十間に面なる阿弥陀如来天安寺より多聞天の像と安
直以由山乃瀧橋の嘉禎元年高祖聖人御年六十三歳御降臨
乃御時に月より八月よりと此不ろて御化益教を授けられたまふ
靈跡也抑聖人諸身と共三州尾州濃州を化益しと日月



天津
 復興院
 錦織寺

の以高國は後此郷に來りて終るるや日と晚陰及びひるが爰
又一宮に堂ありて多聞天王乃像と安ん聖人怡然として清身
と共に此堂に寄宿し終る其夜乃又文及んで多聞天神聖
人又告終りて今聖人後の中み安ん如來乃像と此堂に安ん
專修念佛の法を説終るに我すこれを守らんとて空へた
まは終る此郷の飲石鼻民部夜未明爰又來りて聖人と拜
し終けるを以て昨夜天神吾も爰想ありしをかくるに
聖人乃感り終る御者と符合せり爰又押して石鼻民大い
聖人と信敬し力を盡して禪房を營み如來と安ん聖人を
るぶり世尊のてくは聖人又時と得り化黄と播り終るる
遠近に普しは年八月にありて聖人一先入浴し終るるが其
後阿彌の性信坊若性坊等かまろく處坊に來りて教奉り

夕夕小天神地祇と感り終る不や曆仁元年七月六日の夜
天女天降て綿を織り以堅又尺横三尺たり濃又妙色嚴
然として言語を終る綿之貞永の帝聞るる阿彌の教覺
又傳へるる天感み餘り竟る宸帝を下して天神護法綿
織寺の額と楊子勅願所と也終る天安堂に安ん身を
多聞天のる像に天台山傳教大師の彫刻しる慈覺大師
又附屬し終る慈覺大師け一字と造立して天像と安んした
まふとあり○本尊の如來の高祖聖人常陸國に御化奉在
ませし時日國霞が浦乃海中より大なる光物より照り
輝き里人獵師等甚懼り聖人み光と告げ侍聖人彼所より
て看終るに保しる金光明經ありまは正當靈佛あり
在まるとして里人等を集め大綱を入り彼光物と引こさせ



て見ゆ人の正は是妙色澤殿なる阿彌陀佛乃る像にてお
ひくろる聖人又み教ひ尊重恭敬して御身を放し給ひ
常み後の中又安んじお佛とぬし給ひしが多聞天の告命
よりみ當堂の本尊と崇め給ふ事之靈瑞殊なる事しと
よとも悉く記しお不道山第一の靈室なり

○高祖聖人満足の御歌聖人五十六歳六軸の御本書御
制他畢て御歡悦満足乃余り御自画は給ふ御歌を是は
御満足の御歌と稱し元禄七年八月又日當山の堂塔殘
らば回福せり其時此二尊像も焼失し給ひぬと云ふ事七日
と經て後二尊影丈燵の中又安んじとをばしてはしも烈き火乃
中なる小少しも傷らざ給ひぬと云ふ事其後一ける
○院内は老松あり茂松と号く彼若聖人又又宿り給ひ

一附け松又茂をうけ給ふ事より則松の名とせり○聖人御滅
後御直并御孫并うろく寺務し給ひ存覺上人も當院
又後給ひ其御息綱嚴僧都寺務みく中真行りせ給ふと
かん聞へし靈室教品書之

○本郷村より一里半むろり又令が森と云村あり蓮如上人の御并子女二
乃信若と号へし道西へ道の傍法あり若松寺因宗寺と云り

○令が森と云山の名の西の方より守山より一里半に又津の津あり名物
の焼餅餅りけりあり退かあり又橋の橋一揚へ出りあり

○又橋より海と一里の渡りて大津より湖水八条乃一ツ之又川を去り
川より入形家御のあり

長居せはむしてわよあり又又橋の川乃津のいしつ
○又そのありに激田の西激田の長橋あり長と九十六間橋より元乃
方とこれに彼紫武郡が源氏五十に船の巻くことつは石山寺より
入りしものうかれの橋谷へ渡りてまのり流川へ出り小橋あり長と三十二間
右の方湖ありをまき見後しまたまたに速に湖中沖の橋も遠なる

